

ナギ山遺跡 2

(仮称)阿見東ICランプB区間整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成19年3月

茨城県竜ヶ崎土木事務所
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第277集

ナギ山^{やま}遺跡 2

(仮称)阿見東ICランプB区間整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成19年3月

茨城県竜ヶ崎土木事務所
財団法人 茨城県教育財団



ナギ山遺跡2遠景（南東方向から）



ナギ山遺跡2全景（北東方向から）

序

茨城県は、21世紀の社会を展望し、県全域にわたる調和のとれた発展を図るために、県内の交通体系の整備を進めています。一般国道首都圏中央連絡自動車道は、首都圏の再編成・産業活力の向上を図るための基幹施設として計画されたものです。この整備に伴い、阿見町吉原地区に首都圏中央連絡自動車道阿見東IC（仮称）への接続道路として（仮称）阿見東ICランプB区間の整備を進めています。この整備事業は、商業と業務系施設及び住宅地の形成を図り、（仮称）阿見東ICと一体となった町づくりを進めるとともに地域の活性化と秩序ある発展に寄与することを目的としています。

この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地であるナギ山遺跡が所在しています。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県竜ヶ崎土木事務所から埋蔵文化財発掘調査についての委託を受け、平成17年9月から10月まで発掘調査を実施しました。

本書は、ナギ山遺跡の調査成果を取録したもので、本書が学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県竜ヶ崎土木事務所からの多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、阿見町教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 人見 實 徳

例 言

- 1 本書は、茨城県竜ヶ崎土木事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成17年度に発掘調査を実施した、茨城県稲敷郡阿見町大字吉原2743番地の1ほかに所在するナギ山遺跡⁰¹2の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 平成17年9月1日～平成17年10月31日
整理 平成18年10月1日～平成18年12月31日
- 3 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 川又 清明
主任調査員 大塚 雅昭
主任調査員 栗田 功
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理第二課長大森雅之のもと、主任調査員栗田功が担当した。

凡 例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし、ナギ山遺跡は $X = -2,240\text{m}$ 、 $Y = +36,600\text{m}$ の交点を基準点(A 1a1)とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

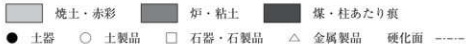
大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A 1区」、「B 2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…、西から東へ1、2、3…0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1区」、「B 2b2区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 S I - 住居跡 S B - 掘立柱建物跡 S K - 土坑 S E - 井戸跡 S D - 溝跡 S F - 道路跡
P - 柱穴 H G - 包含層 S Y - 炭焼窯跡
遺物 P - 土器・陶磁器 TP - 拓本記録土器 DP - 土製品 Q - 石器・石製品 M - 金属製品
土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は400分の1、遺構は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。
- (2) 遺物は原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。



- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺物観察表・遺構一覧表の表記については、次のとおりである。

- (1) 計測値の()内の数値は現存値を、[]内の数値は推定値を示した。計測値の単位は、m、cm、gで示した。
- (2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

- 6 「主軸」は、炉又は竈を持つ堅穴住居跡についてはそれらを通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。「主軸・長軸(径)方向」は主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E)。

抄 録

ふりがな	なぎやまいせきに							
書名	ナギ山遺跡2							
副書名	(仮称)阿見東1CランプB区間整備事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第277集							
著者名	栗田 功							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL.029-225-6587							
発行日	2007(平成19)年3月23日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
ナギ山遺跡	茨城県稲敷郡 阿見町大字吉原 2743番地の1ほ か	08219 - 074	35度 58分 46秒 (35度 58分 57秒)	140度 14分 24秒 (140度 14分 12秒)	13 ~ 23m	20050901 ~ 20051031	2,660㎡	(仮称)阿見東 1CランプB 区間整備事業 に伴う事前調 査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
ナギ山遺跡	集落跡	古墳	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 方形周溝状遺構 遺物包含層	4軒 1棟 1基 1か所	土師器、須恵器、土 製品(土玉)、石器・ 石製品(砥石・勾玉・ 白玉・双孔円板)			
	その他	中・近世	炭焼窯跡 粘土貼土坑 溝跡	1基 1基 1条	土師質土器(小皿・ 内耳鍋・焙烙)			
		時期不明	井戸跡 土坑 溝跡 道路跡 地点貝塚	2基 20基 2条 1条 1か所	縄文土器、土師器、 須恵器、オオタニシ			
要 約	古墳時代中期を中心とする集落跡である。長軸9m、短軸8mほどの大形竪穴住居跡1軒、一辺5~6mほどの竪穴住居跡が3軒確認されている。住居跡内からは、土玉、双孔円板、砥石、滑石の剥片が出土している。方形周溝状遺構からは、350点を超える滑石製の白玉と勾玉2点、さらに、白玉の未製品及び滑石の剥片が多く出土している。							

目 次

序	
例言	
凡例	
抄録	
目次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	8
1 古墳時代の遺構と遺物	8
(1) 竪穴住居跡	8
(2) 掘立柱建物跡	22
(3) 方形周溝状遺構	24
(4) 遺物包含層	33
2 中・近世の遺構と遺物	35
(1) 炭焼窯跡	35
(2) 粘土貼土坑	36
(3) 溝跡	37
3 その他の遺構と遺物	38
(1) 井戸跡	38
(2) 土坑	39
(3) 溝跡	41
(4) 道路跡	41
(5) 地点貝塚	42
(6) 遺構外出土遺物	42
第4節 まとめ	43
写真図版	

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県竜ヶ崎土木事務所は、一般国道首都圏中央連絡自動車道の整備に伴い、阿見町に（仮称）阿見東1CランプB区間の整備を進めている。

平成15年2月24日、茨城県竜ヶ崎土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道首都圏中央連絡自動車道阿見東1C（仮称）への接続道路整備事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成15年4月8日に現地踏査を、平成15年8月4日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成15年8月12日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県竜ヶ崎土木事務所長あてに、事業地内にナギ山遺跡が所在する旨とその取り扱いについて別途協議が必要であることについて回答した。

平成15年12月12日、茨城県竜ヶ崎土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3（現 第94条）の規定に基づき土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成16年1月5日、茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、茨城県竜ヶ崎土木事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

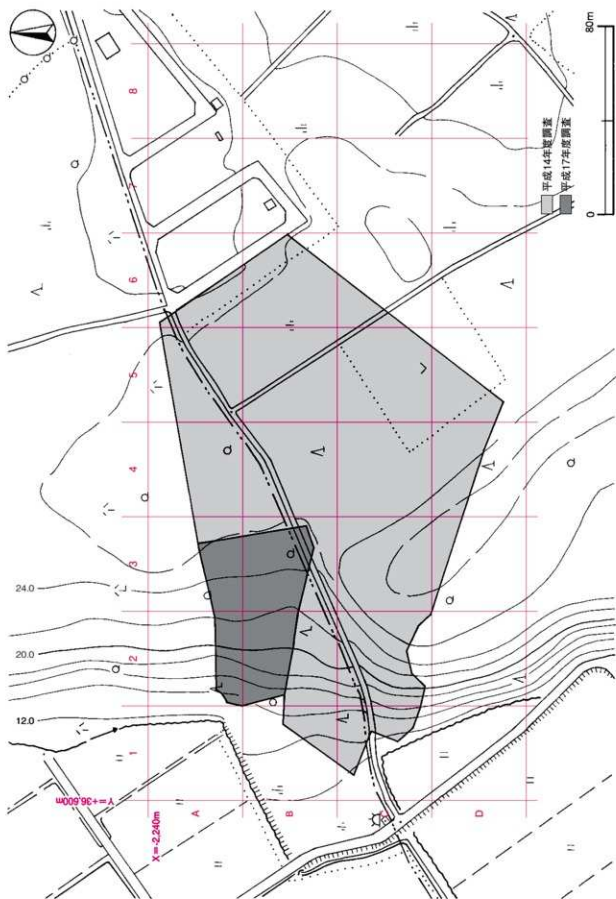
平成17年1月11日、茨城県竜ヶ崎土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、（仮称）阿見東1CランプB区間整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成17年1月14日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県竜ヶ崎土木事務所長あてに、ナギ山遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県竜ヶ崎土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成17年9月1日から10月31日まで発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

ナギ山遺跡2は、平成17年9月1日から10月31日まで実施した。その経過については、概要を表で記載する。

工程		期 間							
		9 月				10 月			
調 査 表 道	査 土 表 構	■							
	準 除 確 認	■							
遺 構 調 査		■				■			
遺 注 写 真	物 洗 記 作	■				■			
	真 整 査 理	■				■			
補 足 撤 取	補 足					■			
	撤 取					■			



第1図 ナギ山道跡調査区設定図

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

ナギ山遺跡は、稲敷郡阿見町の南東部に所在し、霞ヶ浦と利根川に挟まれた標高25～28mの稲敷台地北部に位置している。この台地には小野川、乙戸川、桂川などの中小河川が、北西から南東に向かって流れ、稲敷市松山付近で北東方向に流れを変えて霞ヶ浦に流れ込んでいる。台地のまわりは、水郷国立公園に含まれる低湿地で、水田地帯が広がり、灌漑のための小川や用・排水路が発達している。地質的には、新生代第四紀洪積世の古東京湾期に堆積した海成の砂層である成田層を基盤として、その上に竜ヶ崎層と呼ばれる斜交層理の顕著な砂礫層、さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層（0.3～0.5m）、褐色の間層ローム層（0.5～2.0m）が連続して堆積し最上部は腐食土層となっている¹⁾。

ナギ山遺跡は、霞ヶ浦に流入する小野川支流の桂川と乙戸川の合流点より約2km上流に立地し、桂川左岸の標高13～23mの舌状台地斜面部に位置している。この台地は、南北約1,400m、東西約800mで、南側に沖積低地を望み、西側及び東側から北側にかけて細長い谷津が入り込んでいる。

当遺跡と周辺の土地利用の現状は、斜面部及び台地上が畑地・山林、桂川流域の沖積低地が水田として利用されている。

第2節 歴史的環境

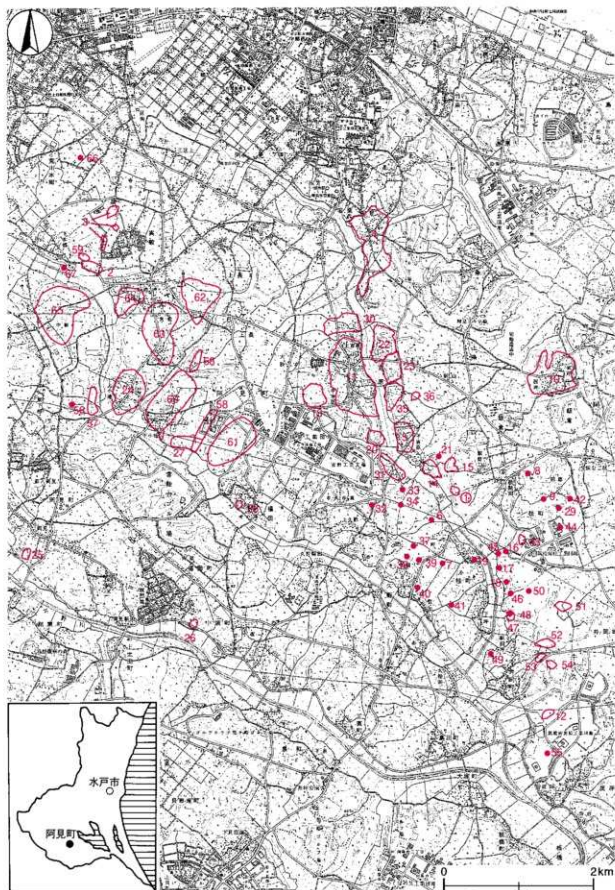
当遺跡の所在する桂川流域の稲敷台地上には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。

旧石器時代の遺跡は、桂川流域では現在のところ確認されていない。しかし、乙戸川流域では実穀古墳群²⁾（2）から細石刃が、実穀寺子遺跡³⁾（3）からはナイフ形石器などが出土している。

縄文時代の遺跡は、下原遺跡（4）、高根遺跡（5）、長久保道添遺跡（6）、台畑遺跡（7）、山ノ神遺跡（8）、米ノ内遺跡（9）などがある。同じ台地上の、清明川の低地から延びる支谷沿いに位置する中ノ台遺跡⁴⁾（10）では、堅穴住居跡5軒、土坑2基が確認されている。

弥生時代の遺跡は極めて少なく、下原遺跡、花房遺跡（11）、姥神遺跡（12）が確認されている程度である。花房遺跡⁵⁾では堅穴住居跡2軒、姥神遺跡⁶⁾では、後期の堅穴住居跡12軒がそれぞれ確認されている。乙戸川と小野川の合流地点からさらに下流の左岸にある天王峰遺跡⁷⁾では、堅穴住居跡15軒が確認されており、出土した広口壺は後期に位置づけられるものである。

古墳時代になると数多くの遺跡が確認されている。桂川流域には、花房遺跡、手接遺跡（13）、篠崎遺跡（14）、葉師入遺跡（15）、姥神遺跡、御山台遺跡（16）、聖天久保遺跡（17）、二本松遺跡（18）、台畑遺跡、屋敷前遺跡（19）、乙戸川左岸の台地上には実穀古墳群、実穀寺子遺跡などが挙げられる。当財団が発掘調査した葉師入遺跡⁸⁾からは、前期から中期にかけての堅穴住居跡29軒が確認されており、高坏・器台・土玉と滑石製の白玉・有孔門板が出土している。実穀寺子遺跡⁹⁾からは48軒の中期の堅穴住居跡が確認されており、高坏・坏・甕・土玉・砥石と滑石製の勾玉・白玉・有孔門板が出土している。平成14年度調査のナギ山遺跡¹⁰⁾からは、中期から後期の堅穴住居跡45軒が確認されており、土玉と滑石製の白玉・有孔門板が出土している。実穀古



第2図 ナギ山遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院5万分の1）

表1 ナギ山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・中・平			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・中・平	近世
①	ナギ山遺跡		○		○	○	○	35	山中遺跡		○				
2	実穀古墳群	○			○			36	赤太郎遺跡				○		
3	実穀寺子遺跡	○	○		○			37	宮久保遺跡	○	○				
4	下原遺跡		○	○				38	中根後遺跡	○					
5	高根遺跡		○		○	○		39	遠後遺跡	○	○				
6	長久保道添遺跡		○					40	台遺跡	○		○	○		
7	台畑遺跡		○		○	○		41	前野遺跡	○	○				
8	山ノ神遺跡		○					42	柏峰A遺跡	○					
9	米ノ内遺跡		○					43	赤塚遺跡	○					
10	中ノ台遺跡		○		○	○		44	獅子見塚古墳				○		
11	花房遺跡			○	○	○		45	御山台古墳群				○		
12	姥神遺跡		○	○	○	○		46	中道通り遺跡				○		
13	手接遺跡				○	○		47	嶽金遺跡	○					
14	篠崎遺跡				○			48	嶽金古墳				○		
15	栗師入遺跡				○	○	○	49	伊勢遺跡	○	○				
16	御山台遺跡				○			50	藤ヶ谷道添遺跡	○	○				
17	聖天久保遺跡				○	○	○	51	愛宕山遺跡	○	○	○			
18	二本松遺跡		○					52	稲荷塚古墳群				○		
19	屋敷前遺跡				○	○		53	横の場遺跡	○					
20	大日遺跡				○			54	堀込台遺跡	○	○				
21	篠崎A遺跡				○	○	○	55	塙台遺跡	○	○				
22	堂山遺跡				○			56	反子遺跡				○		
23	神田遺跡				○			57	大高田遺跡				○		
24	前畑遺跡				○	○		58	下小池東遺跡	○	○				
25	岡見城跡				○			59	実穀寺子西遺跡	○	○	○			
26	小坂城跡				○			60	下小池遺跡	○	○				
27	下小池城跡				○			61	福田遺跡	○	○	○			
28	福田城跡				○			62	向辺田遺跡	○	○	○			
29	柏峰B遺跡		○					63	実穀神田遺跡				○		
30	根崎遺跡				○			64	神宿遺跡				○		
31	腰巻遺跡				○			65	延戸遺跡	○	○	○			
32	水堀遺跡				○			66	北古辺遺跡				○		
33	吉原向山古墳				○			67	だめき古墳				○		
34	牛頭座古墳群				○			68	塚越古墳群				○		

墳群¹¹⁾からは後期の円墳4基が確認されており、ガラス小玉・直刀、40点を超える鉄鍔が出土している。

奈良・平安時代になると、当遺跡周辺は信太郎子方郷に比定されている¹²⁾。花房遺跡、大日遺跡(20)、篠崎A遺跡(21)、手接遺跡、堂山遺跡(22)、神田遺跡(23)、屋敷前遺跡、姥神遺跡などが確認されている。姥神遺跡¹³⁾では、奈良時代の竪穴住居跡32軒、平安時代の竪穴住居跡21軒が確認されており、特徴的な遺物として灰桶陶器の宝珠硯や「仲止夫」「夫百」などの墨書土器が出土している。

中・近世の遺跡では、篠崎A遺跡、聖天久保遺跡、薬師入遺跡が確認されている。篠崎A遺跡¹⁴⁾では、土坑4基、薬師入遺跡¹⁵⁾では、溝跡2条が確認されている。平成14年度調査のナギ山遺跡¹⁶⁾からは、地下式竈2基が確認され土師質土器の小皿や鉢が出土している。実穀古墳群¹⁷⁾では、地点貝塚が1か所確認されている。前畑遺跡¹⁸⁾(24)では、井戸跡5基、溝跡2条が確認され、溝跡からは900点を超える土銅類の破片が出土している。また、周辺には、岡見城跡(25)、小坂城跡(26)、上小池城跡、下小池城跡(27)、福田城跡(28)など、戦国期の城館跡が数多く確認されている。岡見城は室町時代初期ごろから次第に勢力を拡大していった岡見氏発祥の城跡であり、小坂城は戦国期に入って岡見氏によって構築されたものと考えられている。下小池城は、戦国末期に土岐氏によって構築されたものと考えられており、虎口、薬研堀などが確認されている¹⁹⁾。

註

- 1) 日本の地質「関東地方」編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 浅野和久「実穀古墳群・実穀寺子遺跡1 荒川本郷地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(1)」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第144集 1993年3月
- 3) 註2)に同じ
- 4) 矢ノ倉正男、寺門千壽「星合遺跡・中ノ台遺跡 阿見東部工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第137集 1997年9月
- 5) 柳引美樹、後藤孝行「谷ノ沢遺跡・手接遺跡・花房遺跡・大日遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第212集 2004年3月
- 6) 牛久史編さん委員会「牛久史 原始・古代・中世」牛久史 2004年3月
- 7) 註6)に同じ
- 8) 駒沢悦郎「薬師入遺跡 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第239集 2005年3月
- 9) 註2)に同じ
- 10) 石川義信、後藤孝行「ナギ山遺跡1・柏峰B遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第233集 2005年3月
- 11) 註2)に同じ
- 12) 註6)に同じ
- 13) 註6)に同じ
- 14) 小林健太郎「篠崎A遺跡 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第217集 2004年3月
- 15) 註8)に同じ
- 16) 註10)に同じ
- 17) 註2)に同じ
- 18) 後藤孝行、柳引美樹「ツサル下遺跡・反子遺跡・大高田遺跡・前畑遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第211集 2004年3月
- 19) 河野辰夫ほか「下小池城跡保存調査報告書」阿見町教育委員会 1981年11月

参考文献

- ・茨城県教育庁文化課「茨城県道路地図(地名表編・地図編)」茨城県教育委員会 2001年3月

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

ナギ山遺跡2は、茨城県稲敷郡阿見町大字吉原2743番地の1ほかに所在し、桂川左岸の標高13~23mの台地斜面部に位置している。古墳時代中期を中心とした中・近世の複合遺跡である。調査区の現況は畑地及び山林であり、調査対象面積は2,660㎡である。

今回の調査によって、古墳時代の竪穴住居跡4軒、掘立柱建物跡1棟、方形周溝状遺構1基、遺物包含層1か所、中・近世の炭焼窯跡1基、粘土貼土坑1基、溝跡1条、時期不明の井戸跡2基、土坑20基、溝跡2条、道路跡1条、地点貝塚1か所などが確認された。遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に12箱出土しており、大半は古墳時代のものである。主な遺物は、土師器（坏、高杯、碗、壺、甕）、須恵器（壺）、土師質土器（小皿、内耳鍋、播鉢、焙烙）、土製品（土玉）、石器・石製品（砥石、勾玉、白玉、双孔円板）などである。

第2節 基本層序

調査B2g3区にテストピットを設定し、深さ2.2mまで掘り下げて基本層序の観察を行った。土層は10層に分層され、観察結果は以下の通りである。

第1層は黒褐色の表土層で、ロームブロックを微量含んでいる。粘性・締まりはともに弱く、層厚は25~50cmである。

第2層は極暗褐色の表土からローム層への漸移層で、ロームブロックを少量含んでいる。粘性・締まりはともに弱く、層厚は2~8cmである。

第3層は暗褐色のソフトローム層で、ロームブロックを少量含んでいる。層厚は6~13cmである。

第4層は暗褐色のソフトローム層で、ロームブロックを少量、黒色粒子を微量含んでいる。層厚は3~13cmである。

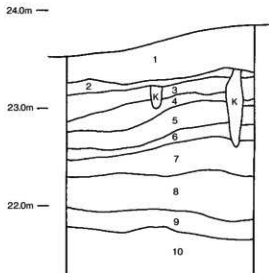
第5層は暗褐色のソフトローム層で、ロームブロックを中量含んでいる。層厚は9~25cmである。

第6層は暗褐色のハードローム層で、黒色粒子を少量含んでいる。粘性・締まりはともに強く、層厚は5~15cmである。

第7層は褐色の粘土質層への漸移層で、ローム粒子を少量、粘土粒子を中量、黒色粒子を微量含んで入る。粘性は弱く締まりが強く、層厚は17~38cmである。

第8層は灰黄色の粘土質層で、黒色粒子・白色粒子を微量含んでいる。粘性は強く、層厚は32~48cmである。

第9層はにぶい黄橙色の粘土層から砂層への漸移層



第3図 基本土層図

で、砂粒を少量、粘土粒子を微量含んでいる。粘性・締まりはともに強く、層厚は15～23cmである。

第10層は黄褐色の砂層で、砂粒を多量、黒色粒子を微量含んでいる。下層は未掘のため、本来の層厚は不明である。

なお、遺構は、第3層上面で確認されている。

第3節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

竪穴住居跡4軒、掘立柱建物跡1棟、方形周溝状遺構1基、遺物包含層1か所が確認された。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第46号住居跡（第4～8回）

位置 調査区東部のB3e6区、標高24.0mほどの緩やかな傾斜地に位置している。

重複関係 第41号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸9.91m、短軸8.77mの長方形で、主軸方向はN-13°-Wである。壁高は最大53cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が北コーナー部を周回している。間仕切り溝が東壁から1条確認され、長さ200cm、幅25cm、深さ20cmである。

炉 5か所。炉1～5は中央部から南北に直線的に並んでおり、床面をわずかに掘りくぼめた、不整楕円形の地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。炉1は、中央部から北壁寄りに位置し、長径80cm、短径70cmである。炉2は、中央部からやや北寄りに位置し、長径85cm、短径60cmである。炉1・2は、床面を5cmほど皿状に掘りくぼめている。炉3は、中央部からやや南寄りに位置し、長径80cm、短径75cmで、床面を3cmほど皿状に掘りくぼめている。炉4は、中央部からやや南東寄りに位置し、長径60cm、短径35cmである。炉5は、中央部から南壁寄りに位置し、長径60cm、短径40cmである。炉4・5は、床面を2cmほど皿状に掘りくぼめている。

炉1土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量

炉2土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量

炉3土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量

炉4土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量

炉5土層解説

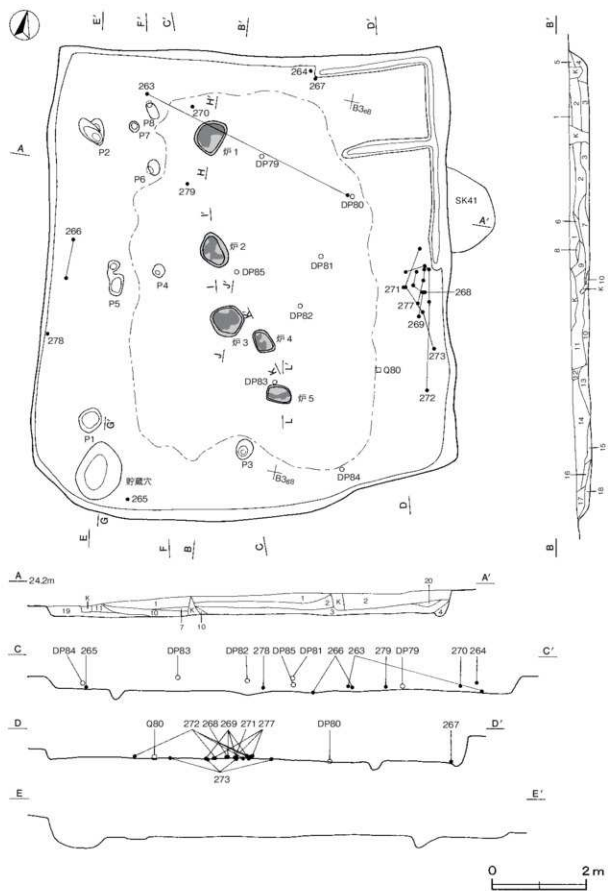
- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット 8か所。P1・P2は深さ6cm・20cmで、規模と位置から主柱穴と考えられる。P3は深さ25cmで、南壁寄りの中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4～P8は深さ25～60cmで、性格は不明である。

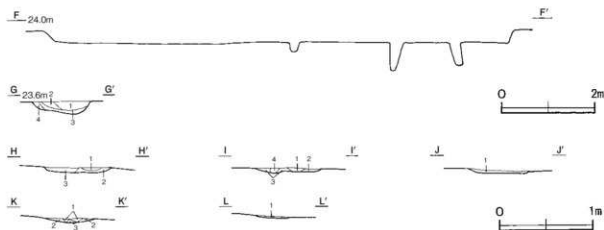
貯蔵穴 南西コーナー部に位置している。長径125cm、短径90cmの楕円形で、深さは25cmである。底面は皿状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |



第4図 第46号住居跡実測図(1)



第5図 第46号住居跡実測図(2)

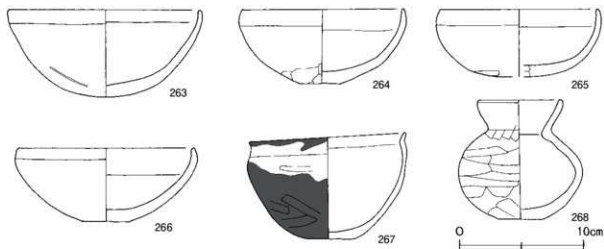
覆土 20層からなり、ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

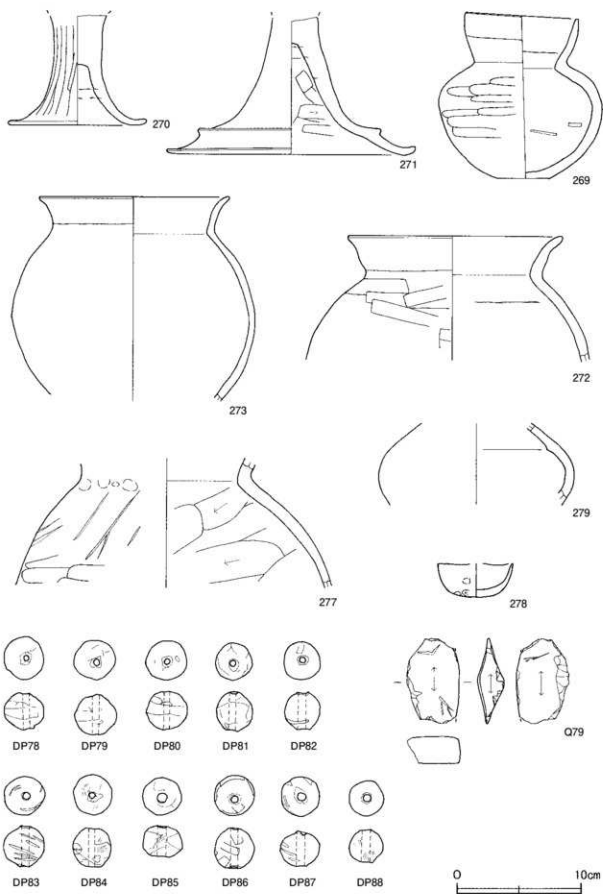
- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 12 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 13 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 無暗褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 | 16 褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 17 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 18 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 19 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 20 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片924点(坏197, 碗1, 高杯7, 壺3, 甕715, ミニチュア1), 須恵器3点(甕), 土製品11点(土玉), 石器1点(砥石), 石製品3点(双孔円板1, 双孔円板未製品カ2), 滑石割片8点が出土している。268・269・271~273・277は東壁際の覆土下層から、まとめて廃棄された状態で出土している。DP79・DP81~DP85は、中央部の覆土上層から中層にかけて散在した状態で出土している。278は西壁際の覆土下層。Q80は南東コーナー寄りの床面, DP78・DP86~DP88, Q75~Q79は覆土中からそれぞれ出土している。

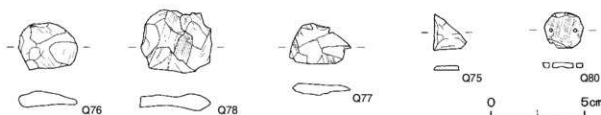
所見 廃絶時期は、出土土器から5世紀後半と考えられる。



第6図 第46号住居跡出土遺物実測図(1)



第7图 第46号住居跡出土遺物実測図(2)



第8図 第46号住居跡出土遺物実測図3)

第46号住居跡出土遺物観察表 (第6～8図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法及び文様の特徴	出土位置	備考
263	土師器	坏	15.3	7.0	-	長石・雲母・白色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面厚減調整不明	覆土下層・床面	95%
264	土師器	坏	13.0	6.0	2.9	長石・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面厚減調整不明	覆土中層	100%
265	土師器	坏	12.5	5.4	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面厚減調整不明	覆土中層	85%
266	土師器	坏	14.1	5.9	3.6	長石・黒色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面厚減調整不明	覆土下層・床面	85% PI-2
267	土師器	碗	12.5	8.5	3.6	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 体部内面厚減調整不明	覆土下層	85% PI-2
268	土師器	小形壺	6.7	9.5	3.5	長石・白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 頸部へラナデ 体部外面へラナデ	覆土下層	100% PI-3
269	土師器	小形壺	9.1	13.3	3.9	長石・白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラナデ	覆土下層	80%
270	土師器	高杯	-	(8.8)	10.6	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	普通	頸部外面へラナデ 脚部内面輪積み痕	床面	40%
271	土師器	高杯	-	(11.0)	18.0	長石・石英・白色粒子	橙	普通	頸部外面厚減調整不明・下端横ナデ・内面へラ削り・へラナデ	覆土下層	50% PI-3
272	土師器	壺	17.1	(10.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラナデ 体部内面輪積み痕・厚減調整不明	覆土下層	30%
273	土師器	壺	15.0	(16.4)	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面厚減調整不明	覆土下層	40% PI-4
277	土師器	壺	-	(10.3)	-	長石・石英・白色粒子	明赤褐	普通	頸部指摺面 体部内・外面へラナデ 体部内面へラ削り 体部外面に溝状の横積み痕	覆土下層	20%
278	土師器	ミニチュア	(6.0)	2.8	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り・指摺痕	覆土下層	90%
279	須恵器	壺	-	(6.5)	-	緑粒・黒色粒子	黄灰	普通	体部外面自然蝕 体部内面口クロ目	覆土下層	5%

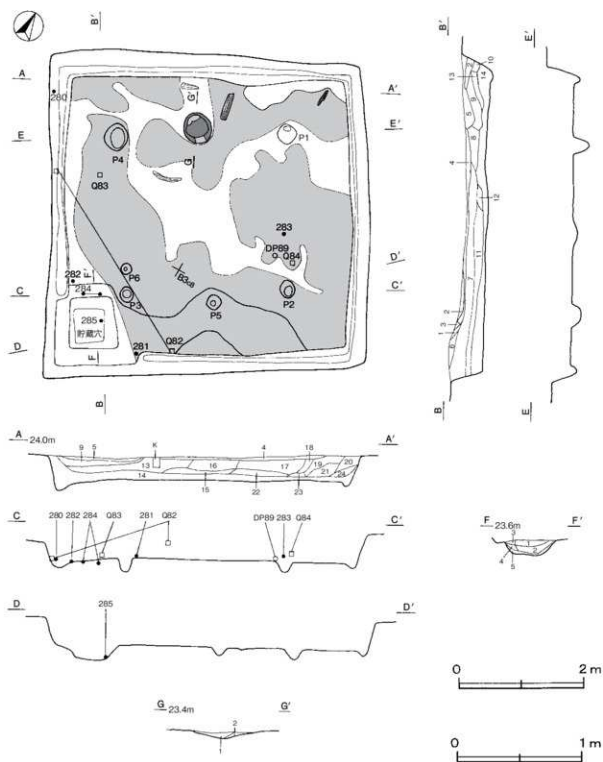
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP78	土玉	3.3	2.9	0.5	29.70	粘土(長石)	ナデ調整 中央部一方向からの穿孔	覆土中	
DP79	土玉	3.3	3.2	0.5	31.50	粘土(長石)	ナデ調整 中央部一方向からの穿孔	覆土中層	PI5
DP80	土玉	3.3	3.0	0.5	30.80	粘土(長石)	ナデ調整 中央部一方向からの穿孔	覆土下層	PI5
DP81	土玉	2.9	3.2	0.5	24.90	粘土(長石)	ナデ調整 中央部一方向からの穿孔	覆土上層	PI5
DP82	土玉	3.0	2.9	0.5	25.30	粘土(長石)	ナデ調整 中央部一方向からの穿孔	覆土上層	PI5
DP83	土玉	3.2	2.9	0.5	29.40	粘土(長石)	ナデ調整 中央部一方向からの穿孔	覆土上層	PI5
DP84	土玉	3.2	3.1	0.5	31.60	粘土(長石)	ナデ調整 中央部一方向からの穿孔	覆土中層	PI5
DP85	土玉	3.2	2.5	0.7	20.70	粘土(長石)	ナデ調整 中央部一方向からの穿孔	覆土中層	PI5
DP86	土玉	3.2	3.2	0.5	22.60	粘土(長石)	ナデ調整 中央部一方向からの穿孔	覆土中	PI5
DP87	土玉	3.2	2.8	0.7	22.30	粘土(長石)	ナデ調整 中央部一方向からの穿孔	覆土中	PI5
DP88	土玉	2.8	2.6	0.6	17.70	粘土(長石)	ナデ調整 中央部一方向からの穿孔	覆土中	PI5

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	孔径	材質	特徴	出土位置	備考
Q75	瀬片	1.9	1.8	0.25	0.92	-	滑石(蛇紋岩)	石柄	覆土中	PI5
Q76	瀬片	2.5	3.1	0.70	6.85	-	滑石(蛇紋岩)	形製品 有孔円板を意図したものか	覆土中	PI5
Q77	瀬片	1.7	3.3	0.70	4.60	-	滑石(蛇紋岩)	形製品 有孔円板を意図したものか	覆土中	PI5
Q78	瀬片	3.4	3.8	0.90	15.00	-	滑石(蛇紋岩)	形製品 有孔円板を意図したものか	覆土中	PI5
Q79	砥石	(6.8)	4.3	2.10	(59.00)	-	安山岩	紙面3面 砥製品	覆土中	
Q80	瓦孔円板	1.9	2.0	0.30	1.86	0.1	滑石(千枚岩)	片面のみ斜位の研磨 片面穿孔	床面	PI5

第47号住居跡 (第9～11図)

位置 調査区東部のB 3 b7区、標高235mほどの緩やかな傾斜地に位置している。

規模と形状 長軸5.18m、短軸5.12mの方形で、主軸方向はN-31°-Wである。壁高は最大53cmで、外傾して立ち上がっている。



第9図 第47号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、貯蔵穴及び出入り口施設に伴うピット周辺が踏み固められている。壁溝が南西コーナー部を除いて周回している。炭化材が北壁寄りに散在し、炭化物や焼土ブロックが床面全体に確認されている。

炉 中央部からやや北壁寄りに位置している。長径54cm、短径45cmの楕円形で、床面を5cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物微量 | 2 暗赤褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
|---------------------|------------------------------|

ピット 6か所。P1～P4は深さ15～25cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ15cmで、東壁寄りの中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ10cmで、補助柱穴と考えられる。

貯蔵穴 南西コーナー部に位置している。長軸80cm、短軸75cmの方形で、深さは24cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量 | 5 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 | |

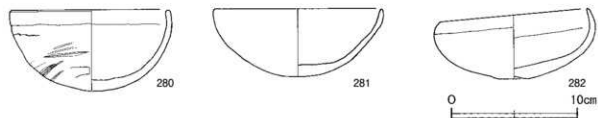
覆土 24層からなり、ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

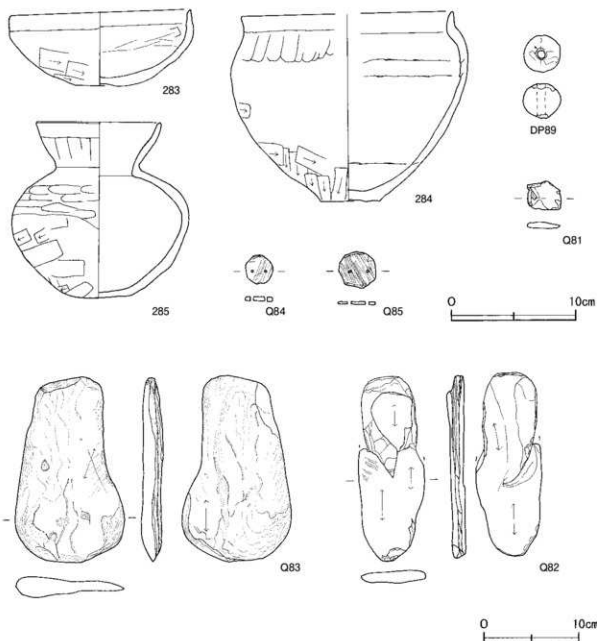
- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1 褐色 ロームブロック少量 | 13 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 14 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化材微量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | 15 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 17 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック微量 | 18 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 7 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 | 19 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 20 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 |
| 9 黒褐色 ロームブロック微量 | 21 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 10 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 22 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 11 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 23 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 12 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 24 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化材微量 |

遺物出土状況 土師器片573点（坏277、碗1、壺5、甕288、瓶2）、須恵器1点（坏）、土製品1点（土玉）、石器2点（砥石）、石製品2点（双孔門板）、滑石剥片4点が炭化物や焼土ブロックの上層及び下層から出土している。280は北西コーナー部、283・DP89・Q84は東部の覆土下層からそれぞれ出土している。281・282・284は南西コーナー部、Q83は西部の炭化材下の床面からそれぞれ出土している。285は貯蔵穴の底面から出土している。

所見 炭化材が北壁寄りに散在し、床面全体に炭化物や焼土ブロックが確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から5世紀後半と考えられる。



第10図 第47号住居跡出土遺物実測図(1)



第11図 第47号住居跡出土遺物実測図2

第47号住居跡出土遺物観察表 (第10・11図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法及び文様の特徴	出土位置	備考
280	土師器	碗	12.7	6.5	-	長石・雲母・ 白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面摩減調整不明 体部外面に溝状の磨製痕	覆土下層	100%
281	土師器	坏	13.4	5.5	-	長石・雲母・ 白色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面摩減調整不明	床面	95% PI-2
282	土師器	坏	11.8	5.7	2.4	長石・石英・ 雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面摩減調整不明	床面	95%
283	土師器	坏	14.4	6.3	3.8	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 体部内面ヘラナデ	覆土下層	95%
284	土師器	碗	16.8	15.3	4.7	長石・雲母・ 白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り・ヘラナデ 体部内面輪縁出し	床面	95% PI-2
285	土師器	小形壶	9.9	14.2	5.1	長石・石英・ 雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 頸部ヘラナデ 体部外面ヘラ削り・ヘラナデ	貯蔵穴底面	100% PI-3
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特 徴			出土位置	備考
DP89	土玉	2.9	2.9	0.7	24.10	粘土(長石)	ナデ調整	中央部一方向からの穿孔		覆土下層	PI-5

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	孔径	材質	特 徴	出土位置	備考
Q 81	潤片	23	27	0.50	492	-	滑石(蛇紋岩)	形割品 有孔円板を意図したものか	覆土中	PL5
Q 82	砥石	19.3	7.0	1.80	26200	-	粘板岩	紙面2面	覆土上層・下層	PL4
Q 83	砥石	19.4	11.5	2.20	54800	-	雲母片岩	紙面2面	覆土下層	PL4
Q 84	双孔円板	23	22	0.45	436	0.20	滑石(千枚岩)	表面斜位の研磨 側面斜位の研磨 片面穿孔	覆土下層	PL5
Q 85	双孔円板	29	30	0.25	478	0.20	滑石(千枚岩)	表面斜位の研磨 表面多方向の研磨 側面横位の研磨 片面穿孔	覆土中	PL5

第50号住居跡 (第12~14図)

位置 調査区中央部のA3街区、標高22.0mほどの緩やかな傾斜地に位置している。

重複関係 第50号土坑を掘り込み、第2号道路に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.16m、短軸6.06mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は最大68cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほは平坦である。壁溝が東壁際のみ周回している。

炉 中央部から北壁寄りに位置している。長径64cm、短径52cmの不整楕円形で、床面を5cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック微量

ピット 7か所。P1~P4は深さ18~75cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ15cmで、南壁寄りの中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は深さ10cm・20cmで、炉の南東部に位置しているが性格は不明である。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長軸85cm、短軸80cmの方形で、深さは45cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

覆土 18層からなり、ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

10 黒褐色 ローム粒子微量

2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

11 暗褐色 ローム粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック中量

12 暗褐色 ロームブロック少量

4 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

13 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

5 褐色 ロームブロック少量、炭化材微量

14 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

6 褐色 ローム粒子多量

15 黒褐色 ロームブロック少量

7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

16 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

8 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

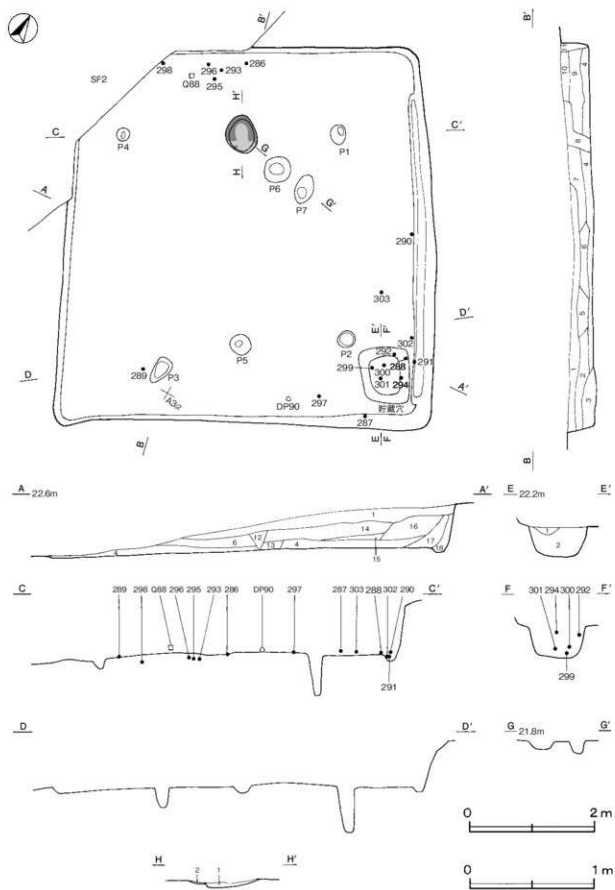
17 暗褐色 ロームブロック多量

9 暗褐色 ロームブロック微量

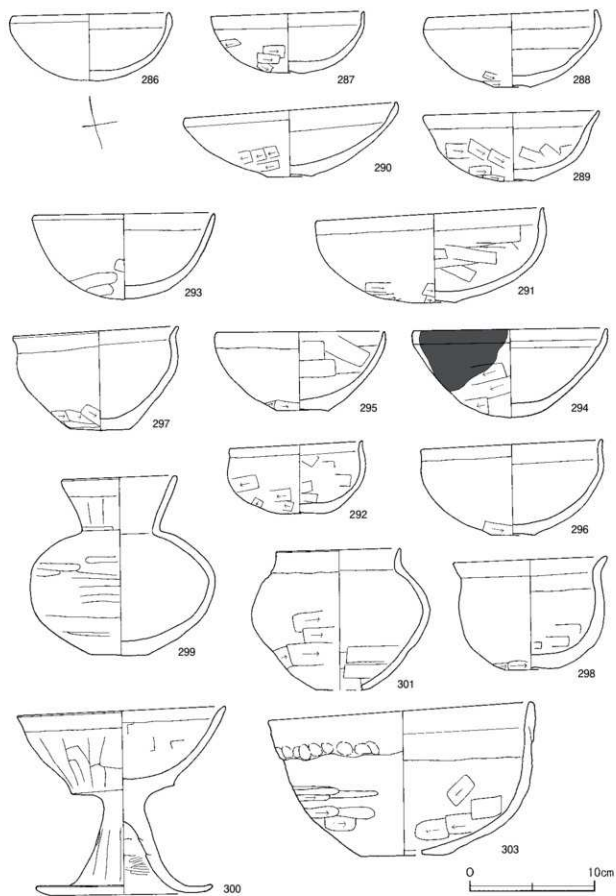
18 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片487点(坏241、椀6、高杯1、壺5、甕233、瓶1)、須恵器1点(甕)、土製品1点(土玉)、石器1点(砥石)、石製品2点(有孔円板未製品、劍形模造品未製品カ)、滑石潤片5点が出土している。286・293・295・296・298・Q88は北壁際、288・290・291・302・303は東壁際、287・297・DP90は南壁際、289は南西コーナー部の床面からそれぞれ出土している。292・294・299~301は貯蔵穴内から遺棄された状態でそれぞれ出土している。

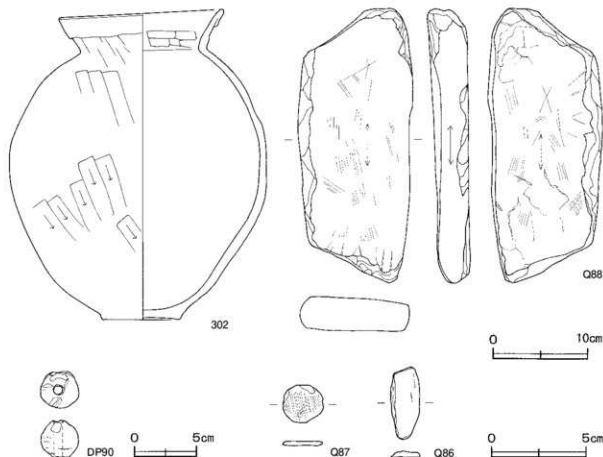
所見 時期は、出土土器から5世紀後半と考えられる。



第12图 第50号住居跡実測图



第13図 第50号住居跡出土遺物実測図(1)



第14図 第50号住居跡出土遺物実測図2)

第50号住居跡出土遺物観察表 (第13・14図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法及び文様の特徴	出土位置	備考	
286	土師器	坏	12.6	5.4	-	紫母・砂粒・白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ調整不明 胎部ヘラ記号	体部内・外面摩減	床面	95%
287	土師器	坏	12.3	4.9	2.0	紫母・赤粒・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面摩減調整不明	体部外面ヘラ削り	床面	100%
288	土師器	坏	13.6	6.2	2.8	長石・雲母・白色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面摩減調整不明	体部外面ヘラ削り	床面	100% P1.2
289	土師器	坏	14.2	5.6	2.8	長石・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	床面	100%
290	土師器	坏	17.0	5.8	3.6	長石・雲母・白色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面摩減調整不明	体部外面ヘラ削り	床面	100% P1.2
291	土師器	坏	18.2	7.5	3.4	長石・雲母・白色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	床面	90%
292	土師器	碗	10.7	5.8	3.7	長石・白色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	貯蔵穴	100%
293	土師器	坏	14.4	6.8	-	長石・白色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 調整不明 体部内面ヘラナデ	体部内・外面摩減	床面	100%
294	土師器	碗	15.5	7.0	-	長石・雲母・白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面摩減調整不明	体部外面ヘラ削り	貯蔵穴	100%
295	土師器	碗	13.4	6.3	4.0	長石・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	床面	100%
296	土師器	碗	14.5	7.7	3.5	長石・白色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	床面	100%
297	土師器	碗	13.1	8.2	4.9	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面摩減調整不明	体部外面ヘラ削り	床面	100% P1.2
298	土師器	碗	12.2	8.9	4.0	長石・雲母・白色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	床面	90% P1.2
299	土師器	小形壺	9.0	14.3	4.6	長石・雲母	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	頸部ヘラナデ 体部内面ヘラナデ	貯蔵穴	100% P1.3
300	土師器	高杯	16.7	15.0	11.2	長石・雲母・白色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 頸部外面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	貯蔵穴	95% P1.4
301	土師器	壺	9.8	11.3	{4.3}	長石・雲母・白色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	貯蔵穴	90% P1.2
302	土師器	甕	17.5	32.8	8.1	長石・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	灰黄し口縁 口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	頸部 体部内面ヘラナデ	床面	100% P1.1
303	須恵器	瓶	21.0	12.0	7.0	長石・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	折り返し口縁 口縁部外面折面圧削り 口縁部内・外面横ナデ	体部内・外面ヘラ削り	床面	85% P1.3

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP90	土玉	3.0	(2.9)	0.7	23.80	粘土(長石)	ナデ調整 中央部一方向からの穿孔 表面一部剥離	床面	PL5

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	孔径	材質	特徴	出土位置	備考
Q 86	割片	3.9	1.6	0.30	3.66	-	滑石(蛇紋岩)	朝鮮石製模造品の未製品*	覆土中	PL5
Q 87	有孔円板	2.0	2.0	0.20	2.20	-	滑石(蛇紋岩)	未穿孔 両面研磨	覆土中	PL5
Q 88	砥石	28.8	12.1	4.30	2,270.00	-	緑色粘板岩	砥面3面	床面	PL4

第51号住居跡 (第15図)

位置 調査区中央部のB3b3区、標高23.0mほどの緩やかな傾斜地に位置している。

重複関係 第1号方形周溝状遺構を掘り込み、第2号独立柱建物、第49号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.36m、短軸3.28mの方形で、主軸方向はN-27°Wである。壁高は最大37cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部から南東部にかけて踏み固められている。中央部には2か所の赤変した範囲が確認されている。壁溝がほぼ全周している。出入り口施設に伴うと考えられるピットの周囲は馬蹄形状に高まり硬化している。

炉 中央部から北東コーナー部寄りに位置している。長径64cm、短径50cmの楕円形で、床面を6cmほど皿状に掘りくぼめた地床である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量	4 黒褐色 炭化物中量、焼土粒子少量
2 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量	5 暗赤褐色 焼土ブロック、ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量	6 暗赤灰色 焼土ブロック中量、炭化物微量

ピット 深さ24cmで、南壁寄りの中央部に位置していることから出入り口施設ともなうピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径55cm、短径49cmの楕円形で、深さは24cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 褐色 ローム粒子中量	4 褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ロームブロック少量	5 暗褐色 ローム粒子少量
3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	

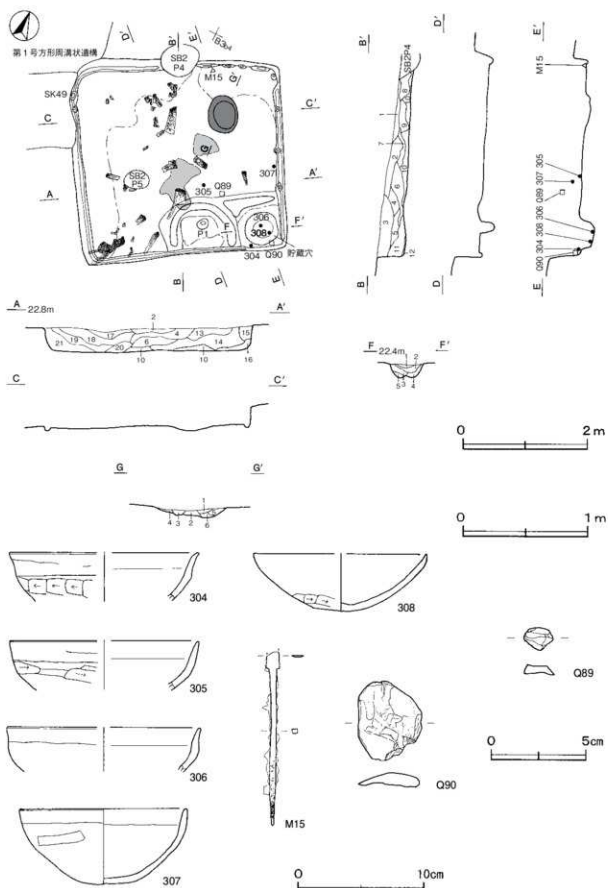
覆土 21層からなり、ロームブロックを含む不規則な堆積状況の人為堆積である。また、家屋構築材の炭化材(丸材)が南西コーナー部の覆土上層から中央部の覆土下層にかけて、確認されている。

土層解説

1 褐色 ロームブロック・炭化物微量	12 黒褐色 ロームブロック微量
2 灰褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量	14 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量	15 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 麻暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	16 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
6 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	17 黒褐色 ローム粒子微量
7 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	18 麻暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量	19 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
9 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	20 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
10 黒褐色 焼土ブロック・炭化材中量	21 黒褐色 炭化材中量、ロームブロック・焼土粒子少量
11 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	

遺物出土状況 土師器片96点(坏42、甕54)、滑石割片2点、鉄器1点(鎌)が出土している。M15は北壁中央部の覆土下層から出土している。305は中央部の床面、306・308は貯蔵穴の底面からそれぞれ出土している。

所見 床面中央部が著しく赤変しており、炭化材(丸材)が実際の覆土上層から中央部の覆土下層にかけて出土していることから、住居廃絶後に焼失したものと考えられる。時期は、出土土器から5世紀後半と考えられる。



第15图 第51号住居跡・出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法及び文様の特徴	出土位置	備考
304	土師器	坏	[152]	(3.8)	-	長石・雲母・白色粒子	明赤褐色	普通	口縁部内・外面積ナデ 体部内面摩滅調整不明	体部外面ヘラ削り	覆土下層 10%
305	土師器	坏	[151]	(3.9)	-	長石・雲母・白色粒子	明赤褐色	普通	口縁部内・外面積ナデ 体部内面摩滅調整不明	体部外面ヘラ削り	床面 10%
306	土師器	坏	[154]	(3.6)	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面積ナデ 調整不明	体部内・外面摩滅調整不明	貯蔵穴底面 85%
307	土師器	坏	[133]	6.1	3.6	長石・雲母・白色粒子	灰黄褐色	普通	口縁部内・外面積ナデ 体部内面摩滅調整不明	体部外面ヘラ削り	覆土上層 85%
308	土師器	坏	[138]	4.6	[4.4]	長石・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り	体部内面摩滅調整不明	貯蔵穴底面 40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 89	割片	1.2	1.6	0.50	0.81	滑石（蛇紋岩）	石割		覆土上層
Q 90	割片	6.5	5.1	1.10	37.80	滑石（蛇紋岩）	瓦割品		覆土下層

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 15	甌	(14.0)	1.0	0.40	(8.25)	鉄	甌身部から基部 先端欠損	覆土下層	PL5

表2 堅穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設				覆土	主な出土遺物	時代	備考		
							土間	土間	土間	土間						
46	B 3-66	N-13°-W	長方形	9.91 × 8.77	21 ~ 53	平埋	一部	2	1	5	5	1	人為	土師器片、土 磁石、磁石	5世紀後半	SK41 → 本跡
47	B 3-67	N-31°-W	方形	5.18 × 5.12	34 ~ 53	平埋	一部	4	1	1	1	1	人為	土師器片、磁 石、磁石	5世紀後半	
50	A 3-11	N-30°-W	方形	6.16 × 6.06	44 ~ 68	平埋	一部	4	1	2	1	1	人為	土師器片	5世紀後半	SK50 → 本跡 → SF2
51	B 3-63	N-27°-W	方形	3.36 × 3.28	20 ~ 37	平埋	一部	-	1	-	1	1	人為	土師器片、鉄線	5世紀後半	第1号方形周溝状遺構 → 本跡 → SK3 → SK6

(2) 掘立柱建物跡

第2号掘立柱建物跡（第16・17図）

位置 調査区中央部のB 3 a2区、標高22.5mほどの緩やかな傾斜地に位置している。

重複関係 第51号住居跡、第1号方形周溝状遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 桁行4間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向はN-12°-Wの南北棟である。規模は、桁行7.2m、梁行3.6mの長方形で、面積は25.92㎡である。柱間寸法は、桁間、梁間とも1.8mである。

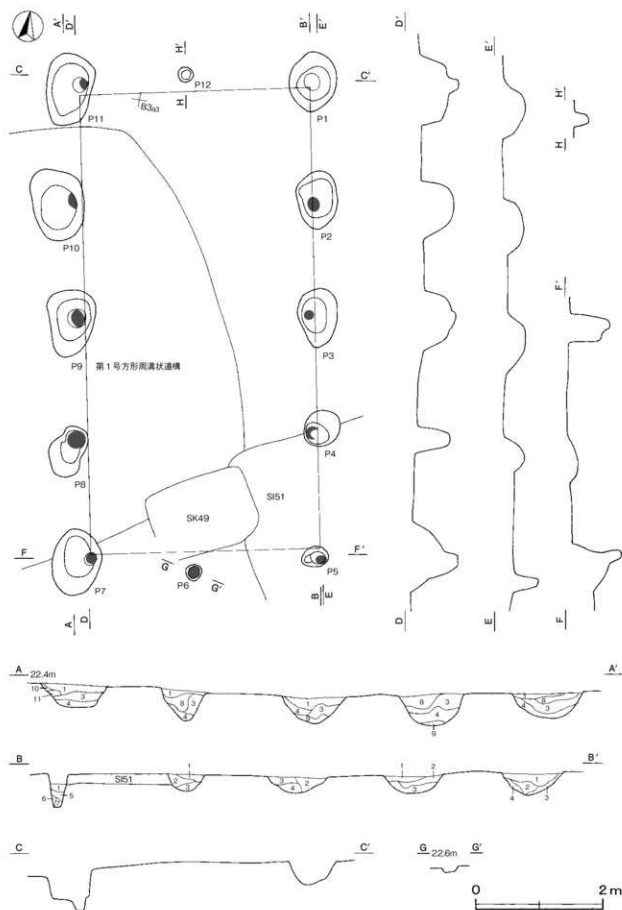
柱穴 12か所。P 1～P 5、P 7～P 11は、径（長径）45～115cmの円形又は楕円形で、深さは8～54cmである。P 6・P 12は径20～25cmの円形で、深さは10～25cmである。P 6・P 12は、他のビットと形状が異なり、東西端の柱と柱の中央に位置していることから樫持ち柱と考えられる。P 2～P 11には、柱のあたり痕が確認されている。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック中量	6	暗褐色	ロームブロック少量
2	褐色	ロームブロック少量	7	黒褐色	ロームブロック微量
3	暗褐色	ロームブロック中量	8	黒褐色	ロームブロック微量
4	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	10	褐色	ローム粒子中量
5	極暗褐色	ロームブロック少量	11	黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片11点（坏2、高杯3、甕6）、須恵器片4点（甕類）が覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から6世紀前半と考えられる。



第16图 第2号掘立柱建物跡実測図



第17図 第2号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第17図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法及び文様の特徴	出土位置	備考
TP39	須臾器	甕類	長石・黒色粒子	灰	普通	体部表面叩き後ナゲ調整	ピット 覆土中	
TP40	須臾器	甕類	長石・黒色粒子	灰	普通	体部表面に多方向からの叩き目	ピット 覆土中	

表3 掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	掘行方向	桁×梁 (間)	規模 (m) (長軸×短軸)	面積 (㎡)	掘行距離 (m)	変行距離 (m)	柱穴		主な出土遺物	時代	備考
								構造	柱穴数			
2	B 3a2	N-12°-W	4×2	7.20×3.60	25.92	1.80	1.80	圓柱	12	土製土器片、須臾器片	6世紀前半	第1号方形周溝遺構→S15→土器

(3) 方形周溝状遺構

第1号方形周溝状遺構 (第18～21図)

位置 調査区中央部のB 3 a2区、標高23.0mほどの緩やかな傾斜地に位置している。

重複関係 第38号土坑を掘り込み、第51号住居、第49号土坑、第2号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.60m、短軸6.50mの隅丸方形に巡り、長軸方向はN-25°-Wである。溝は、上幅0.32～0.51m、下幅0.12～0.22m、深さ19～22cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層からなり、レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

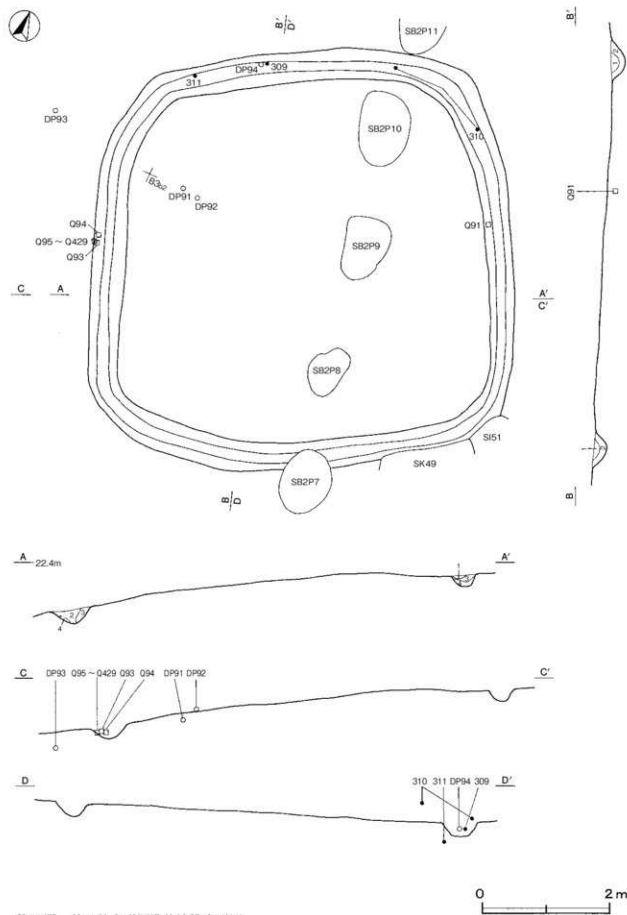
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |

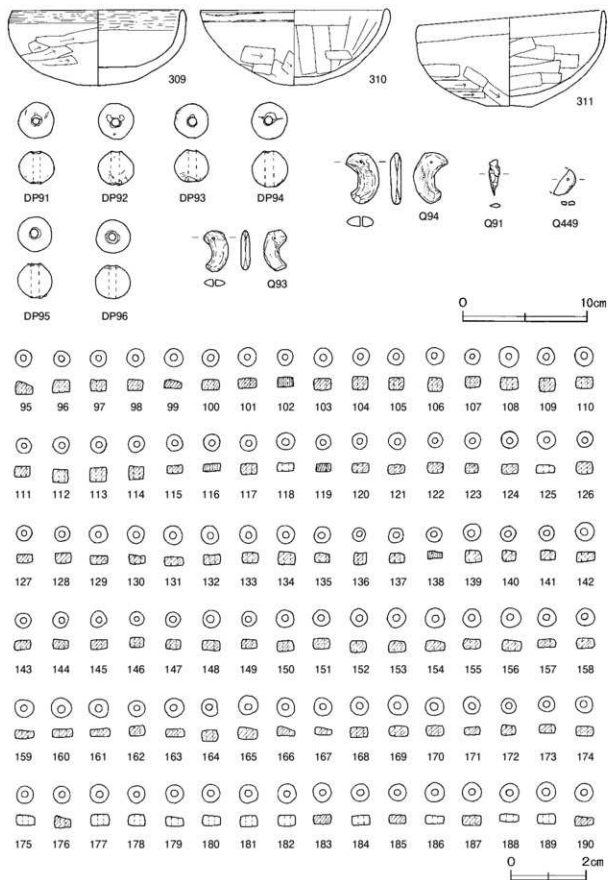
遺物出土状況 土師器片215点(坏71、甕144)、須臾器片4点(甕)、土製品6点(土玉)、石製品357点(勾玉2、白玉347、白玉破損品6、双孔円板破損品1、白玉未製品1)、滑石剥片136点が出土している。

311は北側溝の底面、Q93～Q429は西側溝の中央部壁面から一括して、DP94は北部周溝覆土中層、DP91～DP93、Q92は溝の覆土中と遺構周辺に散在した状態でそれぞれ出土している。勾玉や白玉の製品は、溝内から一括して遺棄された状態で出土している。また、取り上げた滑石の剥片136点は、すべて長さ2cm、幅1.5cm、厚さ5mm以下の不定形で、製作工程の中の形削品ではなく、荒削りや形削りの段階でできた剥片と考えられる。剥片の内容は0.4g以上のものが6.15g(8点)、0.2～0.4gのものが3.12g(12点)、0.2g以下のものが6.3g(115点)、総重量15.57gである。白玉の未製品(1点)や破損品(6点)も出土している。

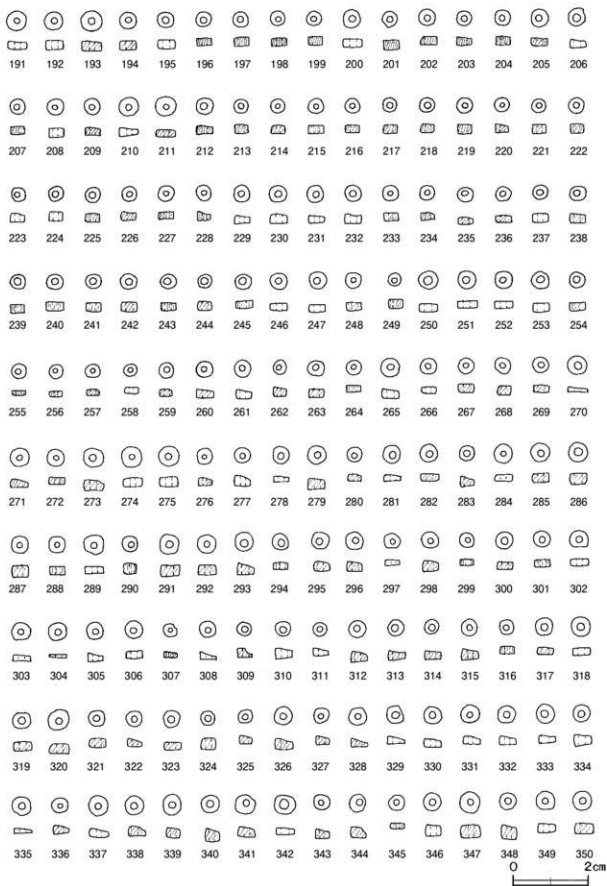
所見 溝に囲まれた内側からは、柱穴や炉は確認されていない。また、炭化面等も確認されていないため、住居跡とは考えられない。さらに、石製品の未製品や工作用ビット、工具等も確認されていないことから石製模造品の製作跡とも考えにくい。本跡の性格は不明である。時期は、出土土器から5世紀後半と考えられる。



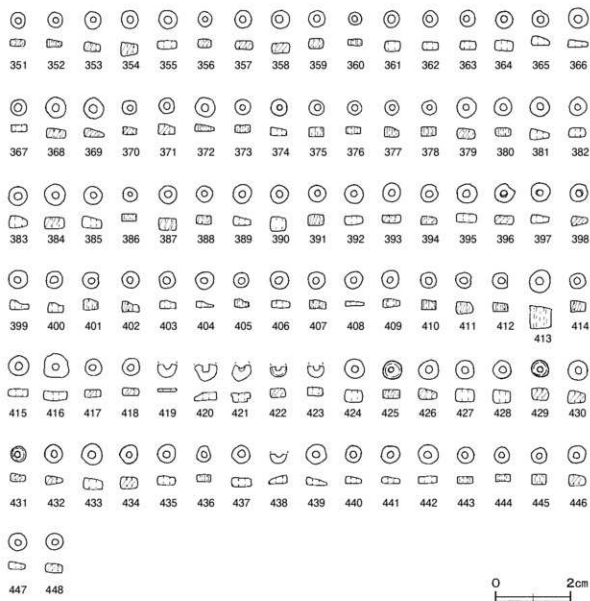
第18図 第1号方形周溝状遺構実測図



第19図 第1号方形周溝状遺構出土遺物実測図(1)



第20图 第1号方形周沟状遺構出土遺物実測図(2)



第21図 第1号方形周溝状遺構出土遺物実測図③

第1号方形周溝状遺構出土遺物観察表(第19～21図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法及び文様の特徴	出土位置	備考	
309	土師器	坏	13.7	6.2	-	長石・雲母・ 白色粒子	にふい赤黒	普通	口縁部内・外面横ナテ	体部外面へラ削り	石原周溝 覆土中層	70%
310	土師器	坏	15.0	6.1	-	長石・雲母・ 白色粒子	明赤黒	普通	口縁部内・外面横ナテ 口縁部外面輪積み 垂	体部外面へラ削り 体部内面へラナテ	北原周溝 土層・中層	80%
311	土師器	甗	14.9	7.7	3.5	長石・雲母・ 白色粒子	明赤黒	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部内面へラナテ	体部外面へラ削り	北原周溝 底面	90% PI.2
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考		
DP91	土玉	2.9	2.6	0.6	21.10	粘土(長石)	ナテ調整	中央部一方向からの穿孔	周溝区画内北西部確認面	PI.5		
DP92	土玉	2.8	2.7	0.7	19.80	粘土(長石)	ナテ調整	中央部一方向からの穿孔	周溝区画内北西部確認面	PI.5		
DP93	土玉	2.7	2.5	0.7	17.90	粘土(長石)	ナテ調整	中央部一方向からの穿孔	周溝区画外北西部確認面	PI.5		
DP94	土玉	2.9	2.8	0.6	20.40	粘土(長石)	ナテ調整	中央部一方向からの穿孔	北部周溝覆土中層	PI.5		
DP95	土玉	2.7	2.8	0.6	17.10	粘土(長石)	ナテ調整	中央部一方向からの穿孔	周溝覆土中	PI.5		
DP96	土玉	2.7	2.6	0.7	18.30	粘土(長石)	ナテ調整	中央部一方向からの穿孔	周溝覆土中	PI.5		

凡例	出土位置	①西側溝中央部断面			特徴	形状 A大股状 B円筒状 C両端部平行			Q 208 白玉 0.44 0.23 0.15 0.07 滑石 B C 3 ① ① PL6
		径	厚さ	孔径		材質	特徴	出土位置	
		②西側溝中央部断面				研磨方向 1研位 2研位 3研位不明			Q 209 白玉 0.42 0.23 0.15 0.06 滑石 B C 1 ① ① PL6
		③西側溝中央部断面							Q 210 白玉 0.51 0.23 0.15 0.10 滑石 A 3 ① ① PL6
		④西側溝中央部断面							Q 211 白玉 0.53 0.20 0.16 0.08 滑石 A C 1 ① ① PL6
		⑤西側溝中央部断面							Q 212 白玉 0.46 0.22 0.16 0.07 滑石 B C 1 ① ① PL6
		⑥西側溝中央部断面							Q 213 白玉 0.34 0.22 0.15 0.05 滑石 B C 1 ① ① PL6
		⑦西側溝中央部断面							Q 214 白玉 0.36 0.23 0.14 0.06 滑石 A C 1 ① ① PL6
		⑧西側溝中央部断面							Q 215 白玉 0.42 0.22 0.13 0.06 滑石 B C 2 ① ① PL6
		⑨西側溝中央部断面							Q 216 白玉 0.42 0.22 0.13 0.06 滑石 B C 1 ① ① PL6
		⑩西側溝中央部断面							Q 217 白玉 0.39 0.24 0.16 0.06 滑石 A C 1 ① ① PL6
		⑪西側溝中央部断面							Q 218 白玉 0.39 0.22 0.16 0.05 滑石 A C 1 ① ① PL6
		⑫西側溝中央部断面							Q 219 白玉 0.39 0.29 0.15 0.07 滑石 B C 1 ① ① PL6
		⑬西側溝中央部断面							Q 220 白玉 0.39 0.22 0.13 0.06 滑石 B C 1 ① ① PL6
		⑭西側溝中央部断面							Q 221 白玉 0.37 0.23 0.15 0.05 滑石 B C 1 ① ① PL6
		⑮西側溝中央部断面							Q 222 白玉 0.39 0.23 0.15 0.06 滑石 B C 1 ① ① PL6
		⑯西側溝中央部断面							Q 223 白玉 0.40 0.25 0.14 0.06 滑石 A C 3 ① ① PL6
		⑰西側溝中央部断面							Q 224 白玉 0.40 0.28 0.15 0.07 滑石 A 3 ① ① PL6
		⑱西側溝中央部断面							Q 225 白玉 0.37 0.25 0.12 0.07 滑石 B C 1 ① ① PL6
		⑲西側溝中央部断面							Q 226 白玉 0.43 0.23 0.15 0.07 滑石 A 1 ① ① PL6
		⑳西側溝中央部断面							Q 227 白玉 0.41 0.20 0.12 0.06 滑石 B C 1 ① ① PL6
		㉑西側溝中央部断面							Q 228 白玉 0.39 0.26 0.17 0.07 滑石 B 1 ① ① PL6
		㉒西側溝中央部断面							Q 229 白玉 0.45 0.25 0.16 0.08 滑石 A C 3 ① ① PL6
		㉓西側溝中央部断面							Q 230 白玉 0.48 0.22 0.17 0.07 滑石 A C 3 ① ① PL6
		㉔西側溝中央部断面							Q 231 白玉 0.45 0.22 0.17 0.07 滑石 A 3 ① ① PL6
		㉕西側溝中央部断面							Q 232 白玉 0.44 0.24 0.17 0.07 滑石 A 3 ① ① PL6
		㉖西側溝中央部断面							Q 233 白玉 0.41 0.23 0.13 0.06 滑石 B C 2 ① ① PL6
		㉗西側溝中央部断面							Q 234 白玉 0.37 0.22 0.14 0.05 滑石 B 1 ① ① PL6
		㉘西側溝中央部断面							Q 235 白玉 0.42 0.18 0.18 0.04 滑石 B C 1 ① ① PL6
		㉙西側溝中央部断面							Q 236 白玉 0.40 0.18 0.21 0.04 滑石 B C 1 ① ① PL6
		㉚西側溝中央部断面							Q 237 白玉 0.40 0.23 0.18 0.05 滑石 A 3 ① ① PL6
		㉛西側溝中央部断面							Q 238 白玉 0.43 0.22 0.20 0.05 滑石 A 1 ① ① PL6
		㉜西側溝中央部断面							Q 239 白玉 0.40 0.22 0.18 0.05 滑石 B 2 ① ① PL6
		㉝西側溝中央部断面							Q 240 白玉 0.43 0.24 0.20 0.05 滑石 B C 2 ① ① PL6
		㉞西側溝中央部断面							Q 241 白玉 0.38 0.23 0.21 0.05 滑石 B C 2 ① ① PL6
		㉟西側溝中央部断面							Q 242 白玉 0.43 0.23 0.21 0.05 滑石 A C 1 ① ① PL6
		㊱西側溝中央部断面							Q 243 白玉 0.40 0.21 0.18 0.05 滑石 B C 2 ① ① PL6
		㊲西側溝中央部断面							Q 244 白玉 0.40 0.20 0.20 0.05 滑石 A C 1 ① ① PL6
		㊳西側溝中央部断面							Q 245 白玉 0.42 0.19 0.19 0.06 滑石 B C 2 ① ① PL6
		㊴西側溝中央部断面							Q 246 白玉 0.45 0.20 0.22 0.05 滑石 A 3 ① ① PL6
		㊵西側溝中央部断面							Q 247 白玉 0.49 0.20 0.20 0.08 滑石 A C 3 ① ① PL6
		㊶西側溝中央部断面							Q 248 白玉 0.40 0.20 0.15 0.05 滑石 B C 2 ① ① PL6
		㊷西側溝中央部断面							Q 249 白玉 0.36 0.25 0.16 0.04 滑石 A C 1 ① ① PL6
		㊸西側溝中央部断面							Q 250 白玉 0.47 0.22 0.20 0.07 滑石 A 3 ① ① PL6
		㊹西側溝中央部断面							Q 251 白玉 0.49 0.17 0.18 0.05 滑石 B C 3 ① ① PL6
		㊺西側溝中央部断面							Q 252 白玉 0.48 0.17 0.17 0.06 滑石 B C 3 ① ① PL6
		㊻西側溝中央部断面							Q 253 白玉 0.48 0.22 0.20 0.06 滑石 A 3 ① ① PL6
		㊼西側溝中央部断面							Q 254 白玉 0.42 0.21 0.17 0.05 滑石 B C 2 ① ① PL6

Q 255	白玉	0.38	0.15	0.20	0.04	滑石	B C 1	①	PL6	Q 302	白玉	0.51	0.20	0.15	0.05	滑石	B 3	①
Q 256	白玉	0.37	0.20	0.16	0.05	滑石	B C 2	①	PL6	Q 303	白玉	0.50	0.19	0.17	0.05	滑石	B 3	①
Q 257	白玉	0.38	0.20	0.18	0.05	滑石	A C 1	①	PL6	Q 304	白玉	0.50	0.10	0.17	0.02	滑石	B 3	①
Q 258	白玉	0.38	0.21	0.18	0.06	滑石	A 3	①	PL6	Q 305	白玉	0.43	0.27	0.18	0.05	滑石	B 3	①
Q 259	白玉	0.40	0.21	0.18	0.07	滑石	A C 1	①	PL6	Q 306	白玉	0.79	0.21	0.18	0.08	滑石	B 3	①
Q 260	白玉	0.42	0.25	0.18	0.08	滑石	A 1	①	PL6	Q 307	白玉	0.36	0.14	0.12	0.02	滑石	B 2	①
Q 261	白玉	0.44	0.28	0.20	0.09	滑石	A 3	①	PL6	Q 308	白玉	0.47	0.18	0.17	0.06	滑石	B 3	①
Q 262	白玉	0.38	0.20	0.18	0.06	滑石	A 1	①	PL6	Q 309	白玉	0.37	0.23	0.18	0.04	滑石	B 1	①
Q 263	白玉	0.42	0.26	0.20	0.07	滑石	A 1	①	PL6	Q 310	白玉	0.48	0.32	0.17	0.06	滑石	A 3	①
Q 264	白玉	0.38	0.20	0.18	0.06	滑石	B C 2	①	PL6	Q 311	白玉	0.38	0.18	0.19	0.04	滑石	B 3	①
Q 265	白玉	0.48	0.26	0.20	0.09	滑石	A 3	①	PL6	Q 312	白玉	0.48	0.30	0.15	0.11	滑石	A 1	①
Q 266	白玉	0.46	0.20	0.18	0.08	滑石	A C 3	①	PL6	Q 313	白玉	0.45	0.26	0.15	0.07	滑石	A 1	①
Q 267	白玉	0.45	0.25	0.20	0.08	滑石	A 1	①	PL6	Q 314	白玉	0.40	0.24	0.18	0.05	滑石	B 1	①
Q 268	白玉	0.44	0.25	0.18	0.08	滑石	A 1	①	PL6	Q 315	白玉	0.45	0.34	0.13	0.09	滑石	A C 1	①
Q 269	白玉	0.40	0.23	0.16	0.07	滑石	B C 1	①	PL6	Q 316	白玉	0.38	0.22	0.15	0.04	滑石	B 2	①
Q 270	白玉	0.50	0.15	0.20	0.06	滑石	B 3	①	PL6	Q 317	白玉	0.42	0.20	0.19	0.06	滑石	A 1	①
Q 271	白玉	0.51	0.25	0.20	0.08	滑石	A 1	①		Q 318	白玉	0.48	0.19	0.18	0.07	滑石	B 3	①
Q 272	白玉	0.48	0.22	0.20	0.10	滑石	A C 1	①		Q 319	白玉	0.49	0.25	0.18	0.07	滑石	A C 1	①
Q 273	白玉	0.51	0.27	0.20	0.11	滑石	A 1	①		Q 320	白玉	0.51	0.25	0.19	0.09	滑石	A 1	①
Q 274	白玉	0.52	0.27	0.20	0.11	滑石	A 3	①		Q 321	白玉	0.44	0.20	0.15	0.06	滑石	A C 1	①
Q 275	白玉	0.52	0.24	0.15	0.12	滑石	A C 3	①		Q 322	白玉	0.38	0.21	0.12	0.05	滑石	A 1	①
Q 276	白玉	0.40	0.20	0.11	0.05	滑石	B C 1	①		Q 323	白玉	0.46	0.23	0.18	0.06	滑石	A 1	①
Q 277	白玉	0.48	0.25	0.12	0.08	滑石	A 3	①		Q 324	白玉	0.41	0.28	0.19	0.06	滑石	A 1	①
Q 278	白玉	0.48	0.12	0.18	0.02	滑石	B 3	①		Q 325	白玉	0.35	0.20	0.18	0.04	滑石	B 1	①
Q 279	白玉	0.51	0.30	0.18	0.12	滑石	A C 1	①		Q 326	白玉	0.48	0.28	0.18	0.08	滑石	A 1	①
Q 280	白玉	0.41	0.18	0.12	0.05	滑石	A C 1	①		Q 327	白玉	0.41	0.24	0.14	0.05	滑石	A 1	①
Q 281	白玉	0.51	0.16	0.19	0.05	滑石	A C 3	①		Q 328	白玉	0.48	0.23	0.20	0.07	滑石	A 1	①
Q 282	白玉	0.48	0.19	0.18	0.06	滑石	B C 1	①		Q 329	白玉	0.47	0.20	0.20	0.04	滑石	B 3	①
Q 283	白玉	0.40	0.30	0.18	0.05	滑石	A 1	①		Q 330	白玉	0.45	0.24	0.15	0.07	滑石	A 3	①
Q 284	白玉	0.50	0.15	0.16	0.05	滑石	A 3	①		Q 331	白玉	0.48	0.23	0.15	0.07	滑石	A 3	①
Q 285	白玉	0.50	0.25	0.18	0.09	滑石	A 1	①		Q 332	白玉	0.48	0.27	0.16	0.09	滑石	A 3	①
Q 286	白玉	0.48	0.29	0.19	0.07	滑石	A 1	①		Q 333	白玉	0.50	0.26	0.18	0.09	滑石	A 3	①
Q 287	白玉	0.45	0.27	0.15	0.08	滑石	A C 1	①		Q 334	白玉	0.44	0.35	0.19	0.08	滑石	A C 3	①
Q 288	白玉	0.42	0.21	0.15	0.05	滑石	B 2	①		Q 335	白玉	0.48	0.13	0.19	0.04	滑石	B 3	①
Q 289	白玉	0.50	0.17	0.18	0.06	滑石	B C 3	①		Q 336	白玉	0.40	0.23	0.12	0.06	滑石	A 1	①
Q 290	白玉	0.38	0.23	0.13	0.05	滑石	B 2	①		Q 337	白玉	0.52	0.24	0.18	0.10	滑石	A 3	①
Q 291	白玉	0.49	0.29	0.20	0.11	滑石	A 1	①		Q 338	白玉	0.48	0.26	0.21	0.10	滑石	A 1	①
Q 292	白玉	0.46	0.27	0.19	0.10	滑石	A 1	①		Q 339	白玉	0.47	0.28	0.21	0.11	滑石	A 1	①
Q 293	白玉	0.45	0.27	0.19	0.07	滑石	A 1	①		Q 340	白玉	0.41	0.39	0.18	0.08	滑石	A 1	①
Q 294	白玉	0.41	0.20	0.15	0.03	滑石	B C 2	①		Q 341	白玉	0.51	0.28	0.12	0.11	滑石	A 1	①
Q 295	白玉	0.44	0.25	0.18	0.07	滑石	A 1	①		Q 342	白玉	0.51	0.20	0.20	0.08	滑石	A 3	①
Q 296	白玉	0.43	0.30	0.17	0.06	滑石	A 1	①		Q 343	白玉	0.44	0.35	0.17	0.09	滑石	A 1	①
Q 297	白玉	0.30	0.16	0.15	0.03	滑石	B 3	①		Q 344	白玉	0.49	0.32	0.18	0.10	滑石	A 1	①
Q 298	白玉	0.46	0.31	0.15	0.07	滑石	A C 1	①		Q 345	白玉	0.40	0.20	0.15	0.05	滑石	A C 2	①
Q 299	白玉	0.38	0.18	0.15	0.03	滑石	B 2	①		Q 346	白玉	0.45	0.32	0.18	0.10	滑石	A 3	①
Q 300	白玉	0.43	0.23	0.15	0.05	滑石	A 1	①		Q 347	白玉	0.53	0.35	0.15	0.16	滑石	A C 1	①
Q 301	白玉	0.42	0.18	0.15	0.04	滑石	B 2	①		Q 348	白玉	0.45	0.39	0.17	0.10	滑石	A 1	①

特徴と出土位置については、凡例で示す（研磨不明は磨痕が確認できないもの）										Q 390	白玉	0.46	0.35	0.17	0.11	滑石	A 3	①
凡例	出土位置	①西側溝中央部断面			特徴	形状			備考	Q 391	白玉	0.45	0.33	0.15	0.11	滑石	A 1	①
		径	厚さ	孔径		A丸底状	B円筒状	C両端部平行		Q 392	白玉	0.50	0.22	0.16	0.08	滑石	A 3	①
番号	器種	長さ (cm)、重さ (g)			材質	特徴	出土位置	備考	Q 393	白玉	0.49	0.25	0.18	0.09	滑石	A C 1	①	
		径	厚さ	孔径					研磨方向	1研位	2研位	3研磨不明	Q 394	白玉	0.49	0.25	0.17	0.07
Q 349	白玉	0.50	0.25	0.17	0.09	滑石	A 3	①	Q 395	白玉	0.52	0.25	0.17	0.10	滑石	A 3	①	
Q 350	白玉	0.48	0.29	0.18	0.10	滑石	A C 1	①	Q 396	白玉	0.51	0.26	0.17	0.08	滑石	A 1	①	
Q 351	白玉	0.41	0.21	0.15	0.05	滑石	A C 1	①	Q 397	白玉	0.49	0.22	0.17	0.07	滑石	A 3	①	
Q 352	白玉	0.40	0.16	0.22	0.05	滑石	B 2	①	Q 398	白玉	0.46	0.28	0.17	0.07	滑石	A 1	①	
Q 353	白玉	0.45	0.16	0.29	0.08	滑石	A 1	①	Q 399	白玉	0.50	0.24	0.16	0.08	滑石	A 3	①	
Q 354	白玉	0.47	0.49	0.19	0.11	滑石	A 1	①	Q 400	白玉	0.46	0.28	0.16	0.08	滑石	A 3	①	
Q 355	白玉	0.51	0.20	0.20	0.08	滑石	A C 3	①	Q 401	白玉	0.44	0.28	0.16	0.08	滑石	B C 2	①	
Q 356	白玉	0.39	0.23	0.15	0.04	滑石	A C 1	①	Q 402	白玉	0.44	0.27	0.17	0.07	滑石	A 1	①	
Q 357	白玉	0.47	0.23	0.20	0.07	滑石	A 1	①	Q 403	白玉	0.47	0.28	0.17	0.07	滑石	A 3	①	
Q 358	白玉	0.50	0.27	0.22	0.08	滑石	A 1	①	Q 404	白玉	0.49	0.17	0.15	0.05	滑石	A 3	①	
Q 359	白玉	0.46	0.24	0.22	0.07	滑石	A 1	①	Q 405	白玉	0.39	0.22	0.19	0.04	滑石	B C 2	①	
Q 360	白玉	0.38	0.14	0.18	0.03	滑石	B C 2	①	Q 406	白玉	0.50	0.20	0.19	0.07	滑石	A 3	①	
Q 361	白玉	0.45	0.25	0.23	0.08	滑石	A 3	①	Q 407	白玉	0.47	0.25	0.17	0.07	滑石	B 1	①	
Q 362	白玉	0.48	0.20	0.20	0.07	滑石	A 3	①	Q 408	白玉	0.50	0.12	0.17	0.05	滑石	B 3	①	
Q 363	白玉	0.47	0.24	0.16	0.07	滑石	A 3	①	Q 409	白玉	0.45	0.25	0.15	0.09	滑石	B C 2	①	
Q 364	白玉	0.46	0.27	0.18	0.07	滑石	A 3	①	Q 410	白玉	0.43	0.30	0.18	0.08	滑石	B C 2	①	
Q 365	白玉	0.48	0.26	0.19	0.10	滑石	A 3	①	Q 411	白玉	0.44	0.33	0.19	0.08	滑石	A 1	①	
Q 366	白玉	0.52	0.18	0.20	0.07	滑石	A 3	①	Q 412	白玉	0.43	0.26	0.18	0.06	滑石	B C 2	①	
Q 367	白玉	0.40	0.20	0.18	0.06	滑石	B C 3	①	Q 413	白玉	0.60	0.62	0.20	0.34	滑石	B C 2	②	
Q 368	白玉	0.52	0.27	0.15	0.12	滑石	A C 1	①	Q 414	白玉	0.41	0.30	0.15	0.07	滑石	B C 1	①	
Q 369	白玉	0.51	0.27	0.19	0.08	滑石	A 1	①	Q 415	白玉	0.52	0.22	0.16	0.09	滑石	A C 3	①	
Q 370	白玉	0.34	0.22	0.15	0.05	滑石	B 1	①	Q 416	白玉	0.68	0.28	0.15	0.19	滑石	片面穿孔 未研磨	①	未製品
Q 371	白玉	0.41	0.30	0.18	0.07	滑石	B 1	①	Q 417	白玉	0.41	0.20	0.16	0.05	滑石	A C 1	①	
Q 372	白玉	0.51	0.20	0.18	0.07	滑石	A 2	①	Q 418	白玉	0.46	0.21	0.17	0.07	滑石	A C 2	①	
Q 373	白玉	0.42	0.20	0.14	0.07	滑石	B 2	①	Q 419	白玉	0.51	0.09	0.15	0.01	滑石	片面穿孔 B 3	①	破損品
Q 374	白玉	0.43	0.22	0.15	0.07	滑石	B 3	①	Q 420	白玉	0.64	0.22	0.15	0.07	滑石	片面穿孔 未研磨	①	破損品
Q 375	白玉	0.39	0.29	0.18	0.07	滑石	B C 2	①	Q 421	白玉	0.51	0.26	0.12	0.07	滑石	片面穿孔 未研磨	①	破損品
Q 376	白玉	0.37	0.21	0.20	0.03	滑石	B 2	①	Q 422	白玉	0.43	0.25	0.16	0.04	滑石	片面穿孔 A 1	①	破損品
Q 377	白玉	0.39	0.28	0.13	0.07	滑石	B 2	①	Q 423	白玉	0.42	0.26	0.12	0.04	滑石	片面穿孔 B 3	①	破損品
Q 378	白玉	0.40	0.23	0.14	0.07	滑石	B C 2	①	Q 424	白玉	0.51	0.36	0.17	0.13	滑石	A 3	①	
Q 379	白玉	0.52	0.29	0.16	0.11	滑石	A 1	①	Q 425	白玉	0.47	0.24	0.14	0.08	滑石	B C 1	①	
Q 380	白玉	0.46	0.22	0.19	0.07	滑石	B C 2	①	Q 426	白玉	0.50	0.28	0.18	0.09	滑石	A 1	①	
Q 381	白玉	0.51	0.31	0.18	0.11	滑石	A 3	①	Q 427	白玉	0.50	0.33	0.18	0.13	滑石	A C 3	①	
Q 382	白玉	0.47	0.23	0.16	0.08	滑石	A 3	①	Q 428	白玉	0.47	0.37	0.18	0.12	滑石	A 3	①	
Q 383	白玉	0.51	0.38	0.20	0.13	滑石	A 3	①	Q 429	白玉	0.46	0.29	0.15	0.10	滑石	A C 1	①	
Q 384	白玉	0.54	0.32	0.18	0.15	滑石	A C 1	①	Q 430	白玉	0.51	0.32	0.15	0.11	滑石	A 3	②	
Q 385	白玉	0.50	0.34	0.17	0.10	滑石	A 3	①	Q 431	白玉	0.42	0.24	0.17	0.05	滑石	A 1	②	
Q 386	白玉	0.40	0.17	0.12	0.03	滑石	B C 2	①	Q 432	白玉	0.48	0.27	0.15	0.06	滑石	A 1	②	
Q 387	白玉	0.49	0.38	0.17	0.11	滑石	A C 1	①	Q 433	白玉	0.53	0.34	0.19	0.12	滑石	A 3	②	
Q 388	白玉	0.42	0.25	0.16	0.06	滑石	A C 1	①	Q 434	白玉	0.47	0.31	0.18	0.10	滑石	A C 1	②	
Q 389	白玉	0.49	0.27	0.17	0.08	滑石	A 3	①	Q 435	白玉	0.47	0.23	0.19	0.06	滑石	A 3	②	
									Q 436	白玉	0.57	0.21	0.15	0.04	滑石	B 2	②	

Q 437	白玉	0.50	0.29	0.15	0.09	滑石	A 3	②		Q 443	白玉	0.41	0.23	0.15	0.07	滑石	B C 2	②	
Q 438	白玉	0.47	0.20	0.19	0.03	滑石 片面穿孔	A 3	②	破損品	Q 444	白玉	0.40	0.20	0.14	0.06	滑石	B C 2	②	
Q 439	白玉	0.53	0.26	0.18	0.07	滑石	A 3	②		Q 445	白玉	0.40	0.24	0.15	0.07	滑石	B C 2	②	
Q 440	白玉	0.46	0.22	0.17	0.05	滑石	A 3	②		Q 446	白玉	0.46	0.29	0.17	0.09	滑石	A 3	②	
Q 441	白玉	0.51	0.23	0.17	0.05	滑石	A 3	②		Q 447	白玉	0.45	0.19	0.16	0.05	滑石	A C 3	②	
Q 442	白玉	0.50	0.20	0.17	0.08	滑石	B C 3	②		Q 448	白玉	0.45	0.25	0.15	0.06	滑石	A 1	②	

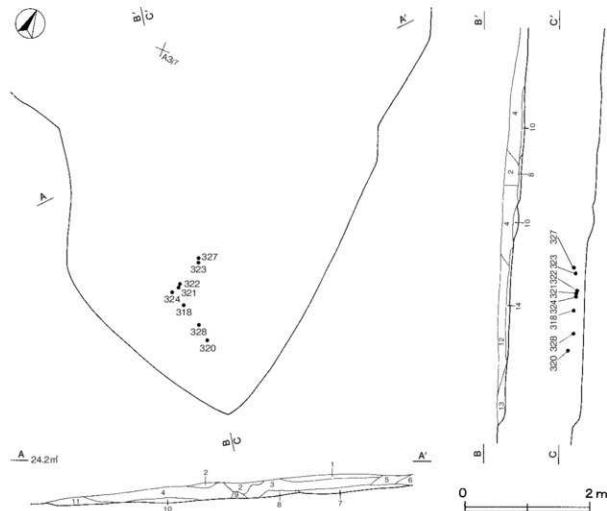
表4 方形周溝状遺構一覽表

番号	位置	長軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	周溝規模			覆土	主な出土遺物	時代	備考 新旧関係(旧→新) SK30→本跡→SK1 →SK49→SK2
					上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)				
1	B 3a2	N-23°-W	隅丸方形	6.60×6.50	0.32~0.51	0.12~0.22	19~22	自然	土師器片、写玉、 白玉	5世紀後半	

(4) 遺物包含層

第1号遺物包含層 (第22・23図)

位置 調査区東部のA 3i6~B 3a7区、標高24.0mほどの緩やかな傾斜地に位置している。



第22図 第1号遺物包含層実測図

規模と形状 南北軸8.0m, 東西軸6.0mの不定形で, 厚さ5~30cmほどにわたって確認されている。

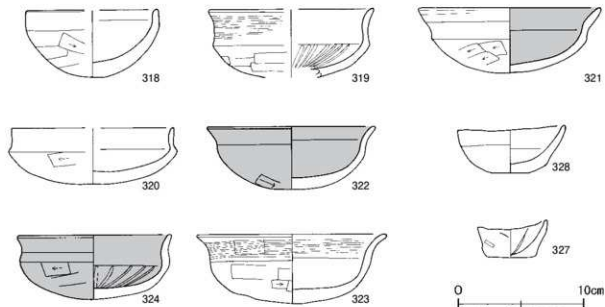
覆土 14層からなり, ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック微量	9 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
3 暗褐色	炭化物・ロームブロック・炭化粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
4 黒褐色	炭化物・ローム粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	12 黒褐色	ローム粒子少量
6 暗褐色	ロームブロック微量	13 黒褐色	ローム粒子微量
7 暗褐色	炭化物・ローム粒子微量	14 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片2,996点(埴980, 高杯4, ミニチュア土器2, 甕2,010)が投棄された状態で出土している。

所見 多量の土器は, 摩滅したものに混じって破断面の鋭利なものが出土しており, 自然に流れ込んだとは考えにくい。また, 出土した範囲には掘り込んだ形跡がなく, 完形の土器が出土していないことから, 自然地形を利用した土器の廃棄場所であったと考えられる。時期は, 出土土器から5世紀後半から6世紀前半と考えられる。



第23図 第1号遺物包含層出土遺物実測図

第1号遺物包含層出土遺物観察表(第23図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法及び文様の特徴	出土位置	備考
318	土師器	碗	[10.4]	5.4	-	長石・雲母	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中層	60%
319	土師器	杯	[13.2]	(5.5)	-	長石・石英・雲母・炭化粒子	に濃い赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	40%
320	土師器	杯	[13.1]	4.5	-	長石・石英・雲母	に濃い赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中層	70%
321	土師器	杯	14.5	5.2	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中層	80%
322	土師器	杯	13.4	5.0	-	長石・雲母	黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中層	95%
323	土師器	杯	15.2	5.6	-	長石・石英・雲母・炭化粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中層	90%
324	土師器	杯	12.2	5.1	-	長石・石英・雲母	に濃い赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中層	100%
325	土師器	ミニチュア	5.6	3.1	3.5	長石・雲母	に濃い黄橙	普通	体部外面ヘラ削り 体部内面放射状のヘラナデ	覆土中層	95%
326	土師器	ミニチュア	8.6	3.8	3.0	長石・砂粒・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	85% P13

2 中・近世の遺構と遺物

炭焼窯跡1基、粘土貼土坑1基、溝跡1条が確認された。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 炭焼窯跡

第1号炭焼窯跡（第24・25図）

位置 調査区西部のA2j6区、標高17.5mの傾斜地に位置している。

重複関係 第55号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径3.65m、短径1.45mの不整形円形で、長径方向はN-111°-Eである。

前庭部 長径2.60m、短径1.45mの不整形円形で、底面は平坦である。壁高は最大で75cmで、外傾して立ち上がっている。

覆土 3層からなり、斜面上部からの流れ込みによる自然堆積である。

前庭部土層解説

- | | |
|-------------------------------|--------------------|
| 1 暗褐色 romeブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 3 灰褐色 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 炭化物少量、romeブロック・焼土ブロック微量 | |

炭化室 長径1.05m、短径0.95mの楕円形である。天井部は崩落しており、壁高は最大で115cmで、直立している。底面は平坦で、底面及び壁面は火熱を受けて赤変硬化している。

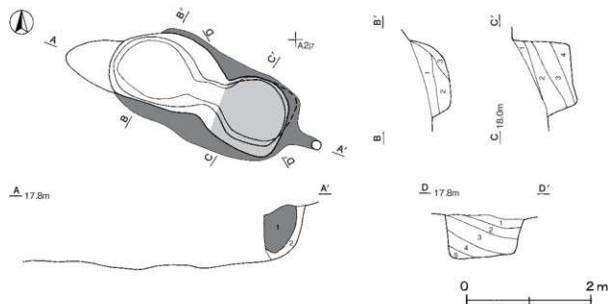
覆土 5層からなり、斜面上部からの流れ込みによる自然堆積である。

炭化室土層解説

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量 | 4 灰褐色 焼土ブロック多量、砂粒少量 |
| 2 灰褐色 砂粒少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 5 黒褐色 romeブロック多量、焼土粒子少量 |
| 3 灰褐色 焼土romeブロック中量、砂粒少量 | |

煙道部 炭化室の南東部に位置している。炭化室の南東壁中央部を壁外に50cmほど掘り込み、径15cmほどの煙道部を残すように粘土を貼り付けて構築されている。煙道は、炭化室の南東壁端部から壁外に向けて外傾して立ち上がっている。

覆土 2層からなり、1層は煙道部の構築材として貼り付けられた粘土層である。



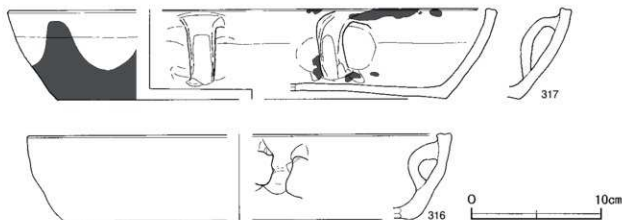
第24図 第1号炭焼窯跡実測図

埋蔵層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子中量、ローム粒子・炭化 2 暗褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片2点(焙烙)が出土している。316・317は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から17世紀以降と考えられる。



第25図 第1号炭焼窯跡出土遺物実測図

第1号炭焼窯跡出土遺物観察表(第25図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法及び文様の特徴	出土位置	備考
316	土師土器	焙烙	[32.9]	6.7	[27.3]	長石・雲母・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	内耳1か所残存	覆土中	
317	土師土器	焙烙	[38.2]	7.0	[30.2]	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	内耳2か所残存 内外面ナデ調整	覆土中	30% P13

表5 炭焼窯跡一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壁面	覆土	主な出土遺物	時代	備考
				長径×短径(m)	深(cm)					
1	A2/B6	N-111°-E	不整楕円形	3.65×1.45	115.0	直立	平坦自然	土師質土器片	17世紀以降	SK55→本跡

(2) 粘土貼土坑

第1号粘土貼土坑(第26図)

位置 調査区東部のB3a8区、標高24.0mの緩やかな傾斜地に位置している。

規模と形状 長径2.08m、短径1.50mの楕円形で、長径方向はN-72°-Wである。深さ80cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。粘土の厚さは、壁面で8~20cm、底面で30~42cmである。

覆土 2層からなり、ロームブロックを含み不規則な堆積状況を示す人為堆積である。3・4層は貼り付けた粘土の層である。

土層解説

- 1 褐色 色 ロームブロック・黒色粒子微量 3 灰黄色 粘土粒子中量、ローム粒子・砂粒微量
2 黒褐色 色 粘土粒子少量、ロームブロック微量 4 にぶい黄色 粘土粒子中量、ロームブロック・砂粒微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)が覆土中から出土している。また、流れ込んだ土師器片36点(杯6、高杯1、壺29)も出土している。

所見 時期は、遺構の様相及び出土土器から中・近世と考えられる。



第26図 第1号粘土貼土坑実測図

表6 粘土貼土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m深さはcm)		粘土の厚さ (cm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係 (旧→新)
				長径×短径	深さ	壁面	底面					
45	B 3 a 8	N-72-W	楕円形	2.08×1.50	80	8~20	30~42	外傾	皿状	人為	土師質土器片	

(3) 溝跡

第6号溝跡 (第27~29図)

位置 調査区東部のA 3 f4~A 3 i5区、標高23.5mの緩やかな傾斜地に位置している。

規模と形状 北側が調査区域外に延びているため、全容を確認できなかった。A 3 f4区から北西方向 (N-15°-W) に直線的に延び、A 3 i5区で徐々に浅くなっている。確認できた長さは13.8mで、上幅0.64~1.58m、下幅0.28~1.13m、深さは最大で28cmである。断面形は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。

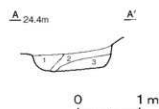
土層 3層からなり、斜面上部からの流れ込みによる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片4点 (灯明皿、小皿、内耳鍋、播鉢) が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀以降と考えられる。



第27図 第6号溝跡実測図



第28図 第6号溝跡出土遺物実測図(1)



第29図 第6号溝跡出土遺物実測図(2)

第6号溝跡出土遺物観察表 (第28・29図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法及び文様の特徴	出土位置	備考
312	土師質土器	灯明皿	7.1	1.9	3.9	長石・雲母・ 長石砂粒	にぶい黄褐色	普通	体部外面口クロ目 底部回転糸切り	覆土中	100% PI.3
313	土師質土器	小皿	9.0	2.7	4.0	長石・雲母・ 長石砂粒	にぶい褐色	普通	体部内・外面口クロ目 底部回転糸切り	覆土中	80% PI.3
314	土師質土器	漆鉢	-	(5.1)	[20.0]	長石・雲母・ 長石・小粒	にぶい褐色	普通	5条1単位の縞り目	覆土中	
315	土師質土器	内耳瓶	[32.6]	(5.8)	-	長石・雲母・ 長石砂粒	褐色	普通	内耳1か所残存	覆土中	

表7 溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模 (m, 深さ12cm)			明面覆土	主な出土遺物	時代	備考
				確認長	上幅	下幅				
6	A3付～A315	N-15°-W	直線	(13.80)	0.64～1.58	0.28～1.13	28	外傾自然	土師質土器	16世紀以降

3 その他の遺構と遺物

井戸跡2基, 土坑20基, 溝跡2条, 道路跡1条, 地点貝塚1か所が確認された。以下, 確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 井戸跡

第3号井戸跡 (第30図)

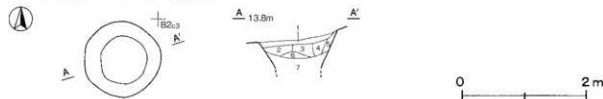
位置 調査区西部のB2c2区, 標高14.0mの傾斜地に位置している。

規模と形状 径1.22mの円形である。深さ100cmまで掘り下げたが, 以下は湧水のため確認できなかった。壁は外傾している。

覆土 7層からなり, ロームブロックを含み不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------|-------|---------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | | |



第30図 第3号井戸跡実測図

所見 湧水があったことや規模及び形状から、井戸と判断した。時期は、出土土器がないため不明である。

第4号井戸跡 (第31図)

位置 調査区東部のA3j5区、標高230mの傾斜地に位置している。

重複関係 第51号土坑に掘り込まれている。

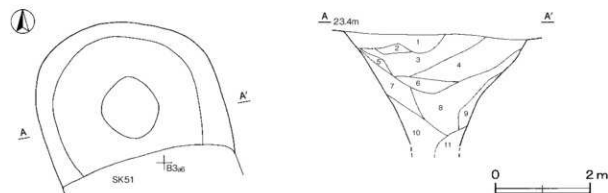
規模と形状 南部を第51号土坑に掘り込まれているため、規模は南北径4.02m、東西径3.47mだけが確認されている。平面形は円形又は楕円形と推定され、確認面から深さ240cmまでは漏斗状に掘り込まれている。以下は、確認することができなかった。

覆土 11層からなり、ロームブロックを含み不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 7 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | 9 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量 | 10 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子少量 | 11 褐色 ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック少量 | |

所見 規模と形状から井戸と判断した。時期は出土土器がないため不明である。



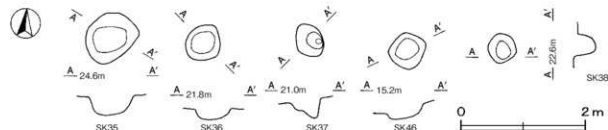
第31図 第4号井戸跡実測図

表8 井戸跡一覧表

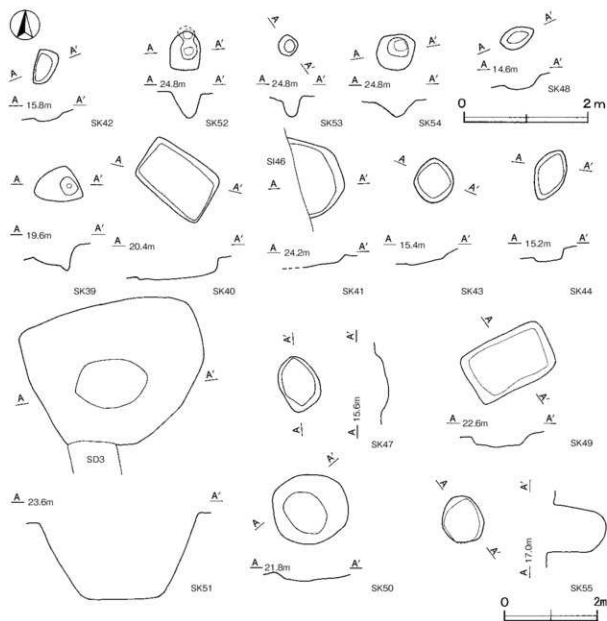
番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m、深さ (cm))		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径	深さ					
3	B2c2	-	円形	1.22×1.22	(100)	外堀	-	人為	-	新旧関係 (旧→新)
4	A3j5	-	円形又は楕円形	4.02×(3.47)	(240)	外堀	-	人為	-	本跡→SK51

(2) 土坑 (第32・33図)

ここでは、時期及び性格が不明な土坑20基について、実測図と一覧表に掲載する。



第32図 土坑実測図(1)



第33図 土坑実測図(2)

表9 土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m 深さ14cm)		壁面	底面	覆土	備考 新旧関係 (旧→新)
				長径×短径	深さ				
35	A 3-8	N-38°-E	楕円形	0.86×0.72	26	外傾	平坦	自然	
36	A 2-7	N-47°-E	楕円形	0.64×0.56	16	縦斜	雁状	自然	
37	A 2-9	N-32°-W	楕円形	0.58×0.44	28	縦斜	雁状	自然	
38	B 3-a3	-	円形	0.44×0.44	28	外傾	雁状	人為	本跡→第1号方形周溝状遺構
39	B 2-c9	N-67°-E	楕円形	0.96×0.72	36	縦斜	雁状	人為	
40	B 2-a9	N-37°-W	長方形	1.68×1.18	28	外傾	平坦	人為	
41	B 3-e8	-	[楕円形]	1.82×(0.96)	17	縦斜	平坦	不明	本跡→SI46
42	B 2-c5	N-60°-W	楕円形	0.60×0.32	8	縦斜	平坦	自然	
43	B 2-c4	N-78°-E	楕円形	0.98×0.82	10	縦斜	平坦	自然	

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m 深さはcm)		壁面	底面	覆土	備考 新旧関係 (旧→新)
				長径×短径	深さ				
44	B 2 d4	N-64°-W	楕円形	1.12 × 0.66	16	外傾	平坦	自然	
46	B 2 b4	-	円形	0.60 × 0.58	26	外傾	平坦	人為	
47	B 2 a4	N-82°-E	楕円形	1.22 × 0.86	18	縦斜	平坦	人為	
48	B 2 b3	N-70°-E	楕円形	0.56 × 0.32	13	縦斜	平坦	人為	
49	B 3 b3	N-62°-E	隅丸長方形	1.94 × 1.24	22	縦斜	平坦	人為	第1号方形周溝状遺構→SE51 →土溝
50	A 3 j1	-	円形	1.64 × 1.54	16	縦斜	平坦	人為	本跡→SE50
51	B 3 a5	N-77°-E	楕円形	3.72 × (3.03)	170	縦斜	平坦	不明	SE4→本跡→SD3
52	A 3 8	N-3°-W	楕円形	0.62 × 0.46	40	外傾	崖状	人為	
53	A 3 8	-	円形	0.34 × 0.28	26	外傾	崖状	人為	
54	A 3 g8	-	円形	0.65 × 0.60	24	外傾	崖状	人為	
55	A 2 j6	N-38°-W	楕円形	1.00 × 0.87	126	外傾	崖状	人為	本跡→第1号炭焼窯跡

(3) 溝跡 (第34図)

ここでは、時期及び性格が不明な溝跡2条について、土層断面図と一覧表で記載し、平面図は全体図で掲載する。



第34図 第1・3号溝跡実測図

第1号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第3号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

表10 溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模 (m、深さはcm)				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備考 新旧関係 (旧→新)
				確認長	上幅	下幅	深さ						
1	B 2 b1-B 2 d2	N-12°-W	直線	(9.07)	0.64-1.12	0.28-0.66	35	縦斜	崖状	自然	-	-	
3	B 3 a5-B 3 g6	N-5°-W	直線	(24.70)	0.61-1.25	0.33-1.01	24	縦斜	平坦	自然	-	-	SK51→本跡

(4) 道路跡

第2号道路跡 (第35図)

位置 調査区中央部のA 3 g1～B 2 e6区、標高160～220mの傾斜地に位置している。

重複関係 第50号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北側と南側の両端部が調査区域外に延びているため、確認できた長さは38.18mで、上幅0.83～2.86m、下幅0.21～1.61m、深さ38～64cmである。A 3 g1区から北東方向(N-39°-E)に直線的に延び、B 2 e6区まで続いている。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 10層からなり、第1～9層は周辺からの流れ込みによる自然堆積である。第10層はローム層の上面で、

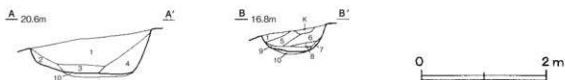
人の往来によって踏み固められた硬化面である。

土層解説

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 7 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量 | 8 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子微量 | 10 褐色 ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片7点(莖)が覆土中から出土している。

所見 第9層のローム面が硬化しており、台地上から低地部まで延びていることから、集落に関わる生活路と推測される。時期は、重複関係及び出土土器から5世紀後半以降と考えられる。



第35図 第2号道路跡実測図

表11 道路跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模 (m, 深さはcm)			調査	地表	覆土	主な出土物	時代	備考
				確認長	幅	深さ						
1	A 3g1 ~ B 2e6	N - 39° - E	直線	38.18	0.83 ~ 2.86	38 ~ 64	-	1	自然	土師器片	5世紀後半以降	新田四郎 (田→新) S150 →本跡

(5) 地点貝塚

第1号地点貝塚 (第36図)

位置 調査区東部のB 3a5区で、標高24.0mの緩やかな傾斜地に位置している。

重複関係 第51号土坑、第3号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.60m、短径0.45mの楕円形で、長径方向はN - 20° - Eである。深さ38cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。



第36図 第1号地点貝塚実測図

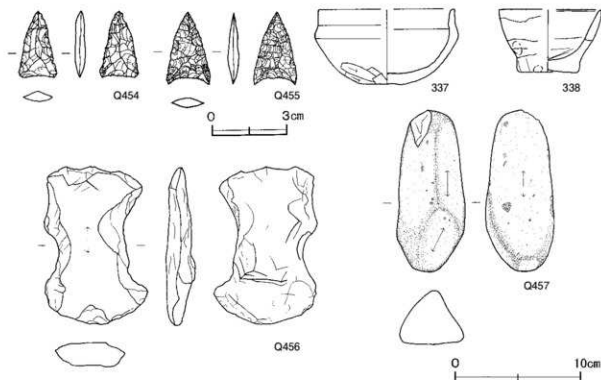
覆土 2層からなる。第1層は混土貝層で、第2層は混貝土層である。

遺物出土状況 出土した貝はオオタニシのみで、総数86個、総重量290.4gである。

所見 時期は、重複関係及び遺構の様相から5世紀後半以降と考えられる。

(6) 遺構外出土物 (第37図)

ここでは、今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物のうち、特徴的なものを抽出して、実測図と遺物観察表で掲載する。



第37図 遺構外出土物実測図

遺構外出土物観察表（第37図）

番号	種別	器種	口径	口径	底径	胎土	色調	焼成	手法及び文様の特徴	出土位置	備考	
337	土師器	碗	[10.9]	5.9	-	長石・白色粒子	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ ヘラナデ	体部外面ヘラ削り・	SI6 覆土中	40%
338	土師器	ミニチュア	[8.2]	5.0	4.6	長石・黒色粒子	橙	普通	体部内・外面輪積み直 体部内面ヘラナデ	体部外面指頭正直	表採	80%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴		出土位置	備考
Q 454	石鏃	2.7	1.6	0.4	1.28	チャート	平基無茎鏃	両面潤離調整により三稜を有する	表採	PL5
Q 455	石鏃	2.9	1.7	0.4	1.56	チャート	凹基無茎鏃	両面潤離調整により三稜を有する	SI6 覆土中	PL5
Q 456	砥石	12.7	8.3	2.4	252.00	安山岩	行製石芥転用	砥面1面	B3c7区 表土	PL4
Q 457	砥石	12.9	5.5	4.2	380.00	石英質岩	砥面3面		表採	PL4

第4節 まとめ

今回のナギ山遺跡（以下ナギ山遺跡2とする）の調査と、茨城県教育財団調査報告の第233集「ナギ山遺跡1・柏峰B遺跡」（以下ナギ山遺跡1とする）で、古墳時代の竪穴住居跡47軒、掘立柱建物跡1棟、方形周溝状遺構1基などが確認されている。ここでは、当遺跡の主体である古墳時代の集落と石製模造品を中心に若干の考察を加えてまとめたい。

1 古墳時代の集落について

周知のナギ山遺跡は5世紀後半から集落が隆盛し、6世紀後半には終末を迎えている²¹。牛久市の小野川流域には古墳時代中期になると馬場遺跡、行人田遺跡、東山遺跡、ヤツノ上遺跡、集人山遺跡、中下根遺跡、西ノ原遺跡、中久喜遺跡など台地上にいくつもの大集落が形成される²²。しかし、各集落ともに100年前後で周

辺に新たな集落を求めて移住している。古墳時代の集落が、前期から後期まで継続している遺跡は、牛久市場では、下小池遺跡⁴¹⁾・大明神西遺跡・寺台遺跡・純神遺跡の4遺跡である。また、二時期にわたり継続している集落は当遺跡を含めて8遺跡にすぎない⁴²⁾。

2 集落の時期について

ナギ山遺跡1の報告では、集落の時期を3期に分けている。1期は5世紀後半、2期は5世紀末から6世紀初頭、3期は6世紀前半である。1期の集落は、台地縁辺部寄りに住居跡17軒が確認されている。出土土師器の特徴は、環の体部が内傾して立ち上がるものが多く、口縁部がわずかに内傾するもの、直立するもの及び内面に稜を有し、わずかに外反するものがあげられる。2期の集落は、台地中央部の平坦地に住居跡11軒が確認されている。3期の集落は、2期と同様に台地中央部の平坦地に12軒の住居跡が確認されている。今回確認された住居跡は、台地縁辺部に位置する第46・47・50・51号の4軒である。出土土器には、木製高杯の模倣と考えられるような高杯の脚部や鉢形の版も出土している。特徴として環の出土量が多く、口縁部がわずかに内傾して立ち上がるもの、内傾するもの、直立するもの及び内面に稜を有しわずかに外反するものであり、底部は丸底と平底のものがある。小形壺は、口縁部が短く直線的に外傾している。椀は、口縁部が短く体部に丸みをもつもの、口縁部が直立気味に立ち上がるものなどが出土している。今回調査では、ナギ山遺跡1の1期の土師器と同じ特徴を有するものが出土していることから、ナギ山遺跡1の1期に該当する⁴³⁾。

3 石製模造品製作跡

石製模造品製作跡について、ナギ山遺跡2で出土した石製品を含めて考察してみたい。小林清隆氏によれば、「石製品を作った形跡は、発掘調査によって原石、未製品、製品、工具などが出土することによって明らかになり、それが堅穴住居跡であれば工房として確実な生産遺跡として位置づけられる」⁷⁾とされている。ナギ山遺跡1の報告書の中で、第9・19・23号大形住居跡からは石製模造品とともに、未製品、原石、剥片及び砥石や敲石が出土しており、工房的性格をもつ住居の可能性が指摘されている⁴⁴⁾。ナギ山遺跡2の調査で確認された第46・47・50号住居跡からは、数は少ないが、石製品・未製品・剥片と砥石及び擦痕のある土師器の破片が出土している。これらの住居跡は、第9号住居跡の西側に位置しており、時期はともに5世紀後半で、同時期に集落を形成していたことが考えられる。確認された石製品及び剥片のほとんどは、三波川変成帯から産出される蛇紋岩であることが確認された⁴⁵⁾。小野川流域では、同様の性格をもつ5世紀末葉の住居跡として、馬場遺跡の56号住居跡があげられる。ここでは、滑石の原石、荒削品と白玉が出土しており、工房的機能もしくは、原石の加工施設的作用が指摘されている。関東地方で出土する石製模造品のほとんどが群馬県鬼石から埼玉県長瀨地域の三波川変成帯を石材の原産地としており、これらの供給には旧利根川を利用した河川交通が想定され、生産地域のほとんどが、旧利根川水系から旧鬼怒川水系に連接する小河川沿いに営まれている⁴⁶⁾。当遺跡は常陸利根川によって水路が通じる霞ヶ浦の南西部に所在しており、小野川の支流である桂川の左岸の台地に位置することから、石製模造品等の石材搬入が水運によって容易な場所にある。このようことから、石製模造品製作跡としての可能性が高いと推測することができる。

遺構名	時期	主な出土遺物		
		石製品	石器	滑石剥片
ナギ山遺跡1	第9号住居跡	白玉2点、未製品12点(研磨途中の白玉6、荒削品2、研磨途中の有孔円板2、研磨途中の割形模造品1、模倣品の割形模造品1)	磨石1点 砥石1点	研磨痕を有する剥片(17.7g)、荒削品、形削品(98.7g)、原石を打ち欠いたもの3点(83.7g)
	第19号住居跡	管玉2点、白玉3点、双孔円板2点、紡錘車1点、刷形模造品2点、白玉未製品3点		長さ2cmを超える剥片16点(70.8g)、長さ2cm以下の剥片(85.4g)、研磨痕のある剥片5点(19.5g)、小剥片(13.4g)
	第23号住居跡	双孔円板1点、白玉3点、未製品10点(白玉穿孔品1、白玉形削品9)	砥石2点	研磨痕のある剥片2点(7.7g)、研磨痕のない剥片(31.9g)、研磨痕のある小剥片(28g)、研磨痕のない小剥片(130.2g)

	遺構名	時期	主な出土遺物		
			石製品	石器	滑石割片
ナギ山遺跡2	第46号住居跡	5世紀後半	双孔円板1点、双孔円板未製品*2点	砥石1点	研磨痕のない割片8点
	第47号住居跡	5世紀後半	双孔円板2点	砥石2点	研磨痕のない割片4点
	第50号住居跡	5世紀後半	右孔円板未製品1点、刺形模造品未製品*1点	砥石1点	研磨痕のない割片5点

「ナギ山遺跡1・2の工房的性格をもつ住居の遺構と出土遺物」

4 小結

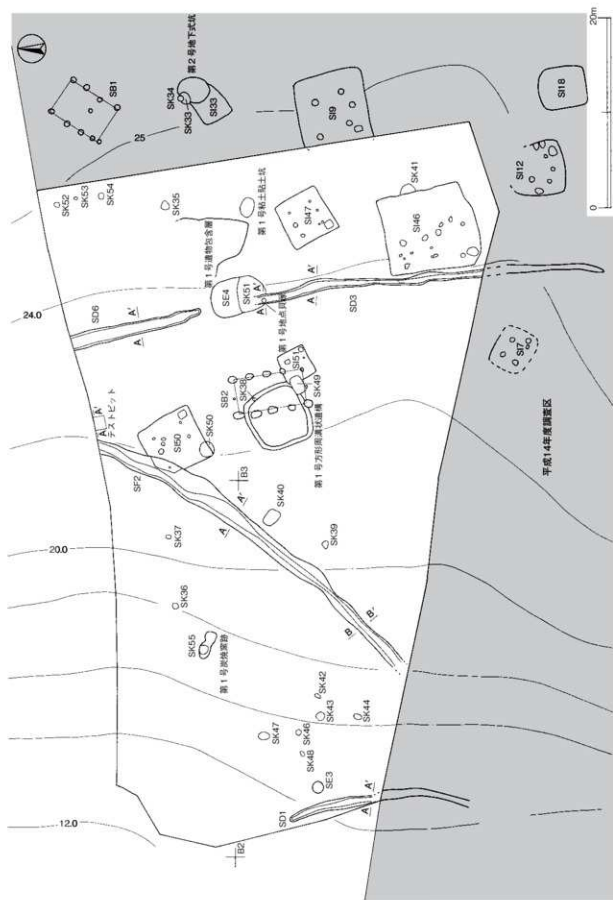
石製模造品による儀礼行為は、畿内周辺から地方へと広まり、盛んに行われるのは5世紀後葉から末葉と考えられている³⁰。石製模造品の使用は、畿内的な社会構造が確立してくると急速に価値観を喪失し、その後は、王墓などから出土する形象埴輪に求めていったと見られており、石製模造品はその役目を終えると捉えられている³¹。当遺跡の時期は5世紀後半から6世紀前半であり、石製模造品の生産や儀礼行為が盛んに行われていた時期と並行している。そして、地方に畿内的な社会構造が確立してくるに従い石製模造品の製作や儀礼行為は価値を失い、工房に関わる集落は衰退へ向かうものと考えられる。その後、当遺跡周辺で行われる儀礼行為は、首長層祭儀の奉送・継承儀礼に求められていき、形象埴輪をともなう古墳の造営が始まると考えられている。牛久市域は、小野川と牛久沼に挟まれた現在の市街地に11か所18基、乙戸川及び桂川流域の久野、奥原地区に13か所22基以上の古墳が所在し、その中でもっとも古い古墳は6世紀前半であり、多くは古墳時代後期の6世紀代のもので推定されている。獅子見塚古墳からは円筒埴輪と形象埴輪が採集されており、6世紀代のものであると考えられている³²。このことから、当遺跡の廃絶時期は、石製模造品による儀礼行為の終息と関連すると考えられ、集落は獅子見塚古墳の所在する桂川下流の台地平坦部、又はさらに下流に所在する御山台古墳や稲荷塚古墳の所在する桂川の対岸や台地平坦部へと移動していくのではないかと推測される。当遺跡を含めて、古墳時代の集落が長期間にわたり継続していないことへの一つの方向性と考えたい。

注

- 古墳時代の年代観については、櫻村宣行氏の編年に基づいた。
櫻村宣行「茨城県における5世紀の動向」『東国土器研究』5号1995年5月
櫻村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2号 茨城県教育財団 1993年7月
櫻村宣行「和泉式土器編年考-茨城県を中心として-」『研究ノート』5号 茨城県教育財団 1996年6月
- 石川義信、後藤孝行「ナギ山遺跡1・柏崎B遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第233集 2005年3月
- 牛久市史編さん委員会「牛久市史 原始・古代・中世」牛久市 2004年3月
- 小竹茂美、鴨志田祐一、浦和敏「下池遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第210集 2004年3月
- 前掲文献2)に同じ
- 前掲文献2)に同じ
- 小林清隆「房総の石製模造品製作-白玉の製作について-」『千葉県文化財センター研究紀要16-20周年記念論集-』1995年1月
- 前掲文献2)に同じ
- 藤原祐一(橋木しづけ風土記の丘資料館)「滑石の生産と使用をつなぐ視点」『第54会 埋蔵文化財研究集会 古墳時代の滑石製品-その生産と消費- 発表要旨・資料集』第54回埋蔵文化財研究集会事務局 2005年9月24日
- 前掲文献9)に同じ
- 前掲文献9)に同じ
- 前掲文献3)に同じ
- 岩石の分類については、茨城大学 理学部理学科 地球環境科学コース 教授 田切美智雄先生に御教示頂いた。

参考文献

- 古墳時代班(集落グループ)「茨城県内の石製模造品について(4)-県内における主な石製模造品の工房跡について-」『研究ノート』11号 茨城県教育財団 2002年6月
- 堀秀道「楽しい鉱物図鑑」草思社 1992年11月10日 第1刷発行 1995年6月5日新装版第5刷発行
- 古宮昇「通商産業省工業技術院地質調査所編 日本の岩石と鉱物」東海大学出版会 1992年7月30日
- 早稲田大学理工学研究科 宮崎 眞一「茨城県常陸太田地方の滑石鉱床」指導 今井直哉教授 1975年2月12日



第38図 ナギ山遺跡2遺構全体図

写真図版

ナギ山遺跡 2



第46号住居跡遺物出土状況



第50号住居跡貯蔵穴遺物出土状況



第1号方形周溝状遺構完掘状況



第46号住居跡完掘状況



第47号住居跡完掘状況



第50号住居跡遺物出土状況



第51号住居跡完掘状況

PL 2



第46・47・50号住居跡，第1号方形周溝状遺構出土遺物



第46・47・50号住居跡，第6号溝跡，第1号遺物包含層，第1号炭焼窯跡出土遺物

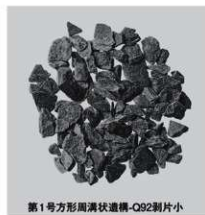
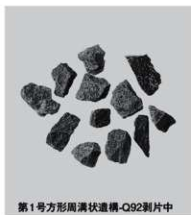
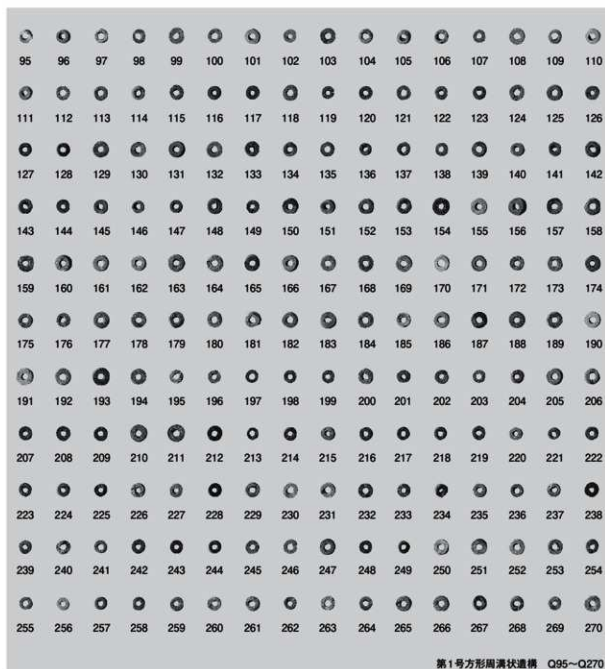
PL 4



第46・47・50号住居跡，遺構外出土遺物



土製品・石器・石製品・金属製品



第1号方形周满状遺構出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第277集

ナギ山遺跡 2

(仮称) 阿見東1CランプB区画整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成19(2007)年3月19日 印刷

平成19(2007)年3月23日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
T E L 029-225-6587

印刷 株式会社 あけほの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号
T E L 029-227-5505